

あなたの身近にいつも…アキレス

Achilles

アキレスレポート 2021

Living with Society

企業理念

「社会との共生」＝「顧客起点」

「顧客起点」のもと、
お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、
豊かな社会の実現に貢献する。

【沿革】

- 1947年 5月 資本金 200万円をもって「興国化学工業株式会社」を設立。本店を東京都中央区日本橋とし、工場を栃木県足利市に置き、ゴム製品の製造、販売を開始。
- 1948年 4月 塩化ビニール製品の製造・販売を開始。
- 1951年 3月 本店を東京都中央区新富町に移転。
- 1956年 6月 大阪営業所を大阪支店に昇格し、関西市場の拡張を図る。
- 1957年 4月 栃木県足利市に山辺工場（現・足利第一工場）を建設。

- 1961年 6月 英国 ICI 社と軟質ポリウレタンフォームの製造に関する技術提携。
- 1962年 9月 東京証券取引所市場第一部に上場。
- 1963年 1月 当社独自の合成皮革「カブロン」の製造に成功、販売を開始。
- 1964年 2月 本店を東京都新宿区大京町に移転。
- 1965年 11月 米国ニューヨークに現地法人アキレスK.C.I. Corp. を設立。（1978年ACHILLES USA, INC. により吸収）
- 1969年 7月 栃木県足利市に御厨工場（現・足利第二工場）を建設。車輦内装材、硬質ウレタンシェル等産業資材の製造に着手。

- 1973年 2月 香港駐在員事務所を現地法人とし、「興白有限公司」（現ACHILLES HONG KONG CO., LIMITED）設立。
- 1973年 10月 滋賀県犬上郡に関西工場（現・滋賀第二工場）を建設。
- 1973年 11月 米国ワシントン州エヴァレット市に「KOHKOKU USA, INC.」（現ACHILLES USA, INC.）を設立。
- 1974年 8月 北海道美唄市に美唄工場を建設。
- 1978年 11月 滋賀県野洲市に滋賀第一工場を設立。

1940

【主な製品の歩み】



1957年
「ロケットシューズ」
販売開始



1957年
農業用
ビニールフィルム
販売開始

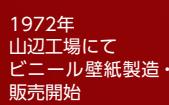
1960



1967年
柄物子ども靴
「ミーナ」
販売開始



1971年
スラッシュモールド
製法による
「コザッキー」
生産開始



1972年
山辺工場にて
ビニール壁紙製造・
販売開始

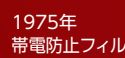
1970



1973年
床材クッションフロア
「アートリウム」
初モデルを発表



1973年
間仕切り用
難燃フィルム
「フラーレ」販売開始



1975年
帯電防止フィルム「セイデンF」販売開始

Contents

沿革／主な製品の歩み	1
トップメッセージ	3
価値創造モデル	5
アキレスの強み・研究開発本部の取り組み	7
事業内容／財務情報	9
アキレスのCSR	11
Social	
製品・サービスを通じた真の満足と感動の提供	
社会との共通価値創造につながる取り組み	13
品質への取り組み	16
お客様と共に	17
お取引先様との協働	18
人権や多様性の尊重とグローバル人材の育成	18
安全で働きやすい健康的な職場環境	20

地域との関わりと社会貢献活動	22
----------------	----

Environment

環境への取り組み	
環境マネジメントシステム	23
地球温暖化対策	24
省エネルギー	25
3R活動と完全ゼロエミッション	26
大気汚染防止	26

Governance

ガバナンス・リスクマネジメント	
コーポレートガバナンス	27
コンプライアンス	28
データ編（環境への取り組み）	29

1982年 2月 社名を変更し、「興国化学工業株式会社」から「アキレス株式会社」とする。

1986年 6月 ドイツ A.S.Creation社と壁材製造に関する技術提携。

1988年 3月 スウェーデンTarkett社と床材の製造に関する技術提携。

1989年 1月 福岡県飯塚市に九州工場を建設。

1993年 12月 中国江蘇省昆山市に塩ビレザーの製造合弁会社「昆山阿基里斯人造皮有限公司」(現・昆山阿基里斯新材料科技有限公司)設立。

1998年 12月 導電性素材「STポリ」生産開始。

1990

1980

1983年「ECCO」販売開始

1985年ジュニアスポーツシューズ「フラッシュパル」販売開始

1985年ロータリースクリーン製法壁紙販売開始

1991年エアータン販売開始

1993年外張り断熱工法公式販売開始

1998年ポリオレフィンフィルム「アキレス POVIC」シリーズ販売開始

1998年導電性素材「STポリ」生産開始

1998年無膜処理1号機稼働、新フォーム「エアロムマック」販売開始

2000

2002年 9月 ISO 14001 全国 7 工場 6 関連会社の全てで認証を取得。(2020年4月時点: 全国 6 工場 4 関連会社)

2002年 10月 中国上海市に、中国国内における当社関連製品の販売および輸出入を行う「阿基里斯(上海)国際貿易有限公司」を設立。

2004年 2月 「昆山阿基里斯人造皮有限公司」(現・昆山阿基里斯新材料科技有限公司)第二工場稼働。

2005年 12月 栃木県足利市の足利第一工場内に「アキレステクニカルセンター」を開設。

2006年 11月 「三進興産株式会社」の発行済全株式を取得し、当社子会社とする。

2007年 10月 環境に配慮した車輦内装用合成皮革の生産に向け、最新鋭製造設備を足利第一工場に導入。

2008年 2月 台湾に、半導体市場の生産拡大に合わせ「阿基里斯先進科技股份有限公司」を設立。

2008年 4月 米国デトロイトにACHILLES USA, INC.の営業所を設立。

2009年 3月 シューズ「瞬足」ブランド、伊藤忠商事株式会社とパートナーシップ契約を締結。

2015年 2月 本店を東京都新宿区北新宿に移転。

2019年 5月 中国広東省佛山市に阿基里斯(佛山)新型材料有限公司を設立。

2019年 11月 アキレスリテール株式会社を設立。



2008年「アキレス・ソルボ」販売開始



2008年遮熱面材付き高性能断熱材「キューワンボード」販売開始



2010年環境対応フォーム「エアロンエコ」販売開始



2013年スニーカーに近い履き心地のパンプス「ALL DAY Walk」販売開始



2013年不燃材料認定フィルム「アキレス フネンクリア」販売開始



2015年ゴムポートJIDAデザインミュージアムセレクション「ナビカーゴ」受賞



2002年ウエハー搬送システム「プロトスキャリア」販売開始



2002年生分解性フィルム「ビオフィレックス マルチ」販売開始



2003年ジュニアスポーツシューズ「瞬足」販売開始



2003年排水管用継手「アキレス ジョイント」直売開始



2006年トンネル補修工法「Tn-p工法」発表

このレポートについて

■ 報告書対象範囲

アキレス株式会社および国内子会社・海外子会社
※範囲が異なるものについては個別に明記します。

■ 報告対象期間

2020年4月～2021年3月

■ 発行時期

前回：2020年9月(「アキレスのCSR 2020」として発行)
今回：2021年9月
次回：2022年9月(予定) ※年1回発行

■ 参考にしたガイドライン・原則・技術規定

ISO 26000(社会的責任に関する手引)
ISO 14001(環境マネジメントシステム)
SDG Compass(SDGsの企業行動指針)
国際統合報告 フレームワーク

■ 編集方針

アキレスグループは「『顧客起点』のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を定め、「健康」「快適さ」「楽しさ」を感じることが出来る製品やサービスを提供することが、アキレスグループにとっての重要な課題であると位置づけています。また持続可能な社会の発展に貢献する活動として、「省エネルギー化」や「地球温暖化防止」にも積極的に取り組んでいます。これらの課題への対応には株主様、お客様、お取引先様、従業員などさまざまなステークホルダーとの連携が重要であると考えています。本レポートでは、ISO 26000を活用して取り組みのチェックを行いつながら、アキレスグループの主なCSR活動に関する詳細な情報をESG(環境、社会、ガバナンス)で分類し、パフォーマンスデータと共に活動報告として記載しています。

※ 本レポートはアキレス株式会社ホームページでも公開しており、右記のQRコードおよび以下URLからサイトにアクセスできます。

<https://www.achilles.jp/csr/>





人と環境に やさしく快適な 生活空間を創造する 企業を目指して

代表取締役社長

伊藤 斉

Q1 中長期的なアキレスの目指す姿について (アキレスの事業精神や存在意義)

戦後、諸先輩たちが国の再興を願い化学の力を生かし社会に貢献する事業を展開するために、社名を興国化学工業として、当社の礎を築きました。そして、その精神を企業理念「社会との共生」＝「顧客起点」として引き継いでいます。

何のために会社が存在するのか、存在すべきかを問うことが大切であり、そのベースとなるものは常に「人」です。私たちアキレスグループが追い求めるものは、人々に寄り添う製品やサービスに、磨き上げた技術力でより良い社会を造るための革新を起こすことです。当然時代は変化し、その時々に応じた製品やサービスが求められるでしょう。お客様の声を真摯に聞き、素早く製品化する、そのような企業であり続けたいと思います。

また、気候変動などがもたらす「自然災害」に対しても、アキレスグループの事業力がお役に立てるよう注力していきます。

Q2 アキレスの独自性について (企業の沿革も含め、アキレスのDNAとは)

繊維業を祖業として出発したアキレスですが、その織物とゴムなどのプラスチックを複合化することで、新たな材料を作り上げ、シューズ、車輦内装材などに展開してきました。また、先人たちが新たな素材を求め海外からウレタン技術を導入し、クッション材や断熱材などの素材を作り上げ、多角的事業を推進した結果、今日のアキレスがあります。アキレスの製品や技術は幅広く、シューズから半導体関連まであり、さら

に医療分野などにも展開しています。

一つの事業や技術を深掘することも行いながら、新たな技術も導入・開発して重層した基盤を作り上げているのがアキレスのDNAではないかと思っています。私自身も研究開発出身であり、当時は海のものとも山のものとも知れない導電性ポリマーの研究を認めてもらった鷹揚おうようさがあり、後のHDD部品製造にもつながりました。同じように多くの従業員が「あきらめなイズム」の姿勢で仕事に取り組んでいると思っています。

Q3 事業環境の認識について (外部環境、内部環境の両面から)

シューズ事業は、たいへん厳しい環境にあります。その要因の一つが少子化です。2020年度の出生率(合計特殊出生率)は1.34であり、生まれた子どもの数も減少し、84万832人と1899年の調査開始以来最少となりました。

通学履きや校内履きなどの子ども靴を主力とする当社にとっては、市場規模の収縮に加えて、海外有名ブランドの子ども靴への進出により、競争が激化しています。さらに、新型コロナウイルス感染症まんえんの蔓延が続く中、消費行動が変化し百貨店・大型スーパーなどのリアル店舗での販売に苦戦しています。一方でeコマースやテレビ通販などが急激に拡大しています。このような環境下において、当社は、子ども靴「瞬足」と話題の「鬼滅の刃」とのコラボ製品や、コンフォートシューズの革靴「アキレス・ソルボ」、ならびに新たな高反発素材を採用するなど、当社独自の素材力で存在感を示せるよう注力していきます。

プラスチック事業は、「脱プラスチック」の逆風が吹く中で、飛沫防止対策用フィルムや医療用フィルムなど、これまでのプラスチック加工技術を背景に新しい市場に製品を投入することができました。もちろん、従来の製品については製造プロセスの見直しで省資源化を進め、さらに原材料のバイオマス化、生分解性樹脂の採用を積極的に進めています。

産業資材事業では、寝具などの軟質ウレタン、断熱材の硬質ウレタンの需要が高まり、生産設備の最新化を図るとともに、全国にある製造拠点を生かし物流コストの低減を図っています。

Q4 目指す姿を実現するための戦略・投資、今後の見通しについて(課題認識と、リスクと機会も含め)

今後の戦略として脱炭素社会に向けた事業の強化を図っていきます。省エネを追求した住宅のための断熱資材事業では断熱性能の向上のための研究を推進するとともに、設備の最新化を図ります。これらの投資により、一段と安定した製品の供給体制が整うこととなります。断熱性能の優れた家のLCCO₂*は断熱性能の低い家に比べて、冷暖房に伴うエネルギー消費を大幅に削減できるため、今後も大きな成長分野として注力していきます。

また、種々ある社会的課題について当社が取り組むべきこととして高齢化対応事業(特定施設の安全性や健康増進)、食品ロス対策(保存期間の延長を確保する包装材や低温保管のための断熱材)、国内農産物の育成(生分解性フィルム、保温材)であり、転んでもケガをしにくい床材などの製品開発、歩行を促進するシューズの製品化、農業用生分解性マルチフィルムに注力していく考えです。特に世界的潮流にもなっている生分解・海洋分解性フィルムの配合研究は大学との共同研究も行いながら、設備投資も随時行っていくつもりです。

海外投資につきましては、国内で培ってきた実績と顧客との信頼関係をもとに積極的に行っていきます。2022年春に車輦内装材の量産を開始する予定の新工場(中国・広東省佛山市)は、お客様である自動車メーカー各社の中国国内調達比率の向上に貢献できると期待しています。

*設計・企画から廃棄まで建物の全生涯で発生するCO₂総排出量のことです。

Q5 ESGへの取り組みの中でも、特に重視する取り組みについて(アキレスの強みを生かして)

アキレスの製品やサービスは「人」の身近にあり、寄り添っているのが強みと考えています。アキレスグループとしては「人と環境にやさしく快適な生活空間を創造する企業」を目指しており、会社の基盤を強くするためにもガバナンス体制を適宜見直しています。

近年、大きな地震に加え地球温暖化の影響と思える豪雨・台風など自然災害が発生しています。まさに快適な生活空間が脅かされています。万が一災害が起こっても、最少の被害で済むように当社が持つ技術を生かして人命を救助するゴムボートの開発や避難テント、避難施設での日常生活用品(寝具、トイレ、室内履き、簡易入浴設備など)を開発、製造する「防災事業」に注力していきます。

Q6 SDGsへの貢献について(事業特性を踏まえ、重点分野や注力商材など具体的に)

アキレスグループはプラスチック加工を「^{なりわい}生業」としている中で、世界的に脱炭素社会への転換が求められていることは十分理解しています。

しかしながら、プラスチックの良さも十分認識されており、プラスチックが果たす最低限の役割があると考えます。それは、技術的進歩によって支えられ、例えば従来よりも厚みが10%薄くなっても強度は変わらないフィルム、耐用年数がこれまでは5年だったが、10年保持できるようになったプラスチック容器などを考えれば、現時点でも総量としてプラスチックの減量(ある意味での脱プラ)に寄与していると思います。

当社グループが扱う全ての原材料について同様の使用削減を定め、将来確立される非プラスチック材料について原材料メーカーとも開発を進めていくつもりです。

Q7 主要なステークホルダーへのメッセージ(株主・投資家の皆様、お客様、お取引先様、従業員などへ)

冒頭でも述べましたが、アキレスは何のために存在しているのかを考えたときに、当然ですが、「なくてはならない存在になりたい」と考えています。シューズでは学校生活でなくてはならない存在、車輦内装材では航空機内装材の軽量化に役立つ素材、アキレスの医療用フィルムの品質は世界最高、高速ゴムボートは世界トップクラスで人命救助になくてはならない存在、壁紙は安定した家づくりに役立つ、軟質ウレタンの寝具の寝心地は最高、断熱性能は世界トップ、半導体容器も世界で認識された商品、アキレスしか作れない素材……このような事業を進めてこられたのは、ステークホルダーの皆様からの支えがあったからです。

株主や投資家の皆様からの用途情報、多方面にわたる原材料や技術を紹介してもらえるお取引先、そして絶対に自分の作ったものをお客様に届けるという強い思いを持った従業員に支えられて、今のアキレスがあります。

この従業員の力こそが、明日の新しいアキレスを生み出します。今後も新しいアキレスにご声援をよろしく願い申し上げます。

価値創造モデル

世界経済のグローバル化、地球環境の保全、日本をはじめ世界各地での大きな自然災害の発生などによって私たちを取り巻く社会環境は大きく、スピードを速めて変化しています。

これまで私たちアキレスグループは「『顧客起点』のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念のもと、持続的な成長と企業価値の創造・増大を図ろうと努めてきました。

新型コロナウイルス感染症拡大によるパンデミックは、災害への備えの重要性を強く感じさせた出来事でした。

アキレスグループは事業を通じて災害対策を推進し、社会貢献に努めていきます。



認識する社会的な課題

アキレスのビジョン

Environment 環境

- 温室効果ガスの排出削減が企業に強く求められています。
- 水や大気の汚染防止への取り組みが求められています。
- 海洋へのプラスチックごみ流出を防止する取り組みが求められています。
- 生物多様性保全への取り組みが求められています。

Social 社会

- 事業活動上での人権侵害を回避する取り組みが求められています。
- 少子高齢化がもたらすさまざまな課題への対応が求められています。
- ダイバーシティインクルージョンの推進が求められています。
- 地域社会への貢献が期待されています。

Governance ガバナンス

- 成長戦略と併せてサステナブルを推進するリーダーシップが求められています。
- 適時適切な情報開示を含め、ステークホルダーとの対話が求められています。
- 公正な事業慣行とリスクマネジメントが求められています。
- 多様な人材の育成が求められています。

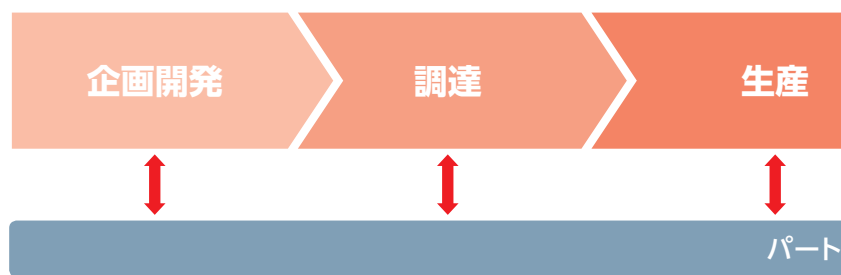
アキレスの事業領域



アキレスの強み プラスチック加工技術



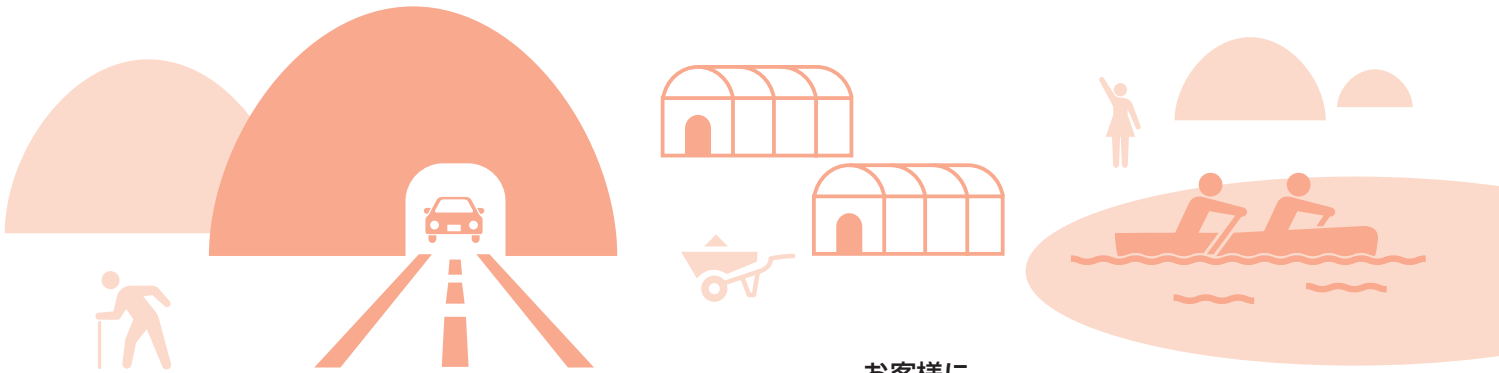
アキレスのバリューチェーン



アキレスのCSR重要テーマ

- 製品・サービスを通じた真の満足と感動の提供
- 環境への取り組み
- お取引先様との協働

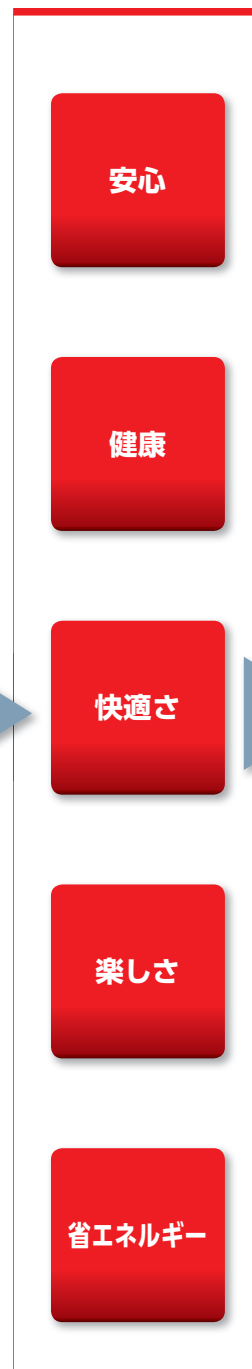




ネスモデル



お客様に提供する価値



企業理念



中長期的な観点に立ち、持続可能な社会の実現に貢献

研究開発本部の取り組み

研究開発本部のミッション (役割と未来)

当社は、プラスチック加工技術を基盤に多彩な製品を開発しています。新製品・新技術の開発では、常に「お客様に感動や驚きを与えたい」という思いを発想の原点としています。そして、研究開発本部では、「新たな価値・市場の創造」、さらに「画期的な技術・商品の創出」を大きな使命としています。

研究開発本部では、2018年4月に基礎研究開発グループ、応用研究開発グループを新設し、2021年4月には、これまで事業部の開発を担っていた産業資材開発部を応用研究開発グループに取り込み、コーポレートの研究開発をさらに充実し強化しました。人と技術が結集することで生まれるシナジーを活用し、当社ならではの独自性のある製品をこれからも皆様にお届けしていきます。

コア技術と重点領域

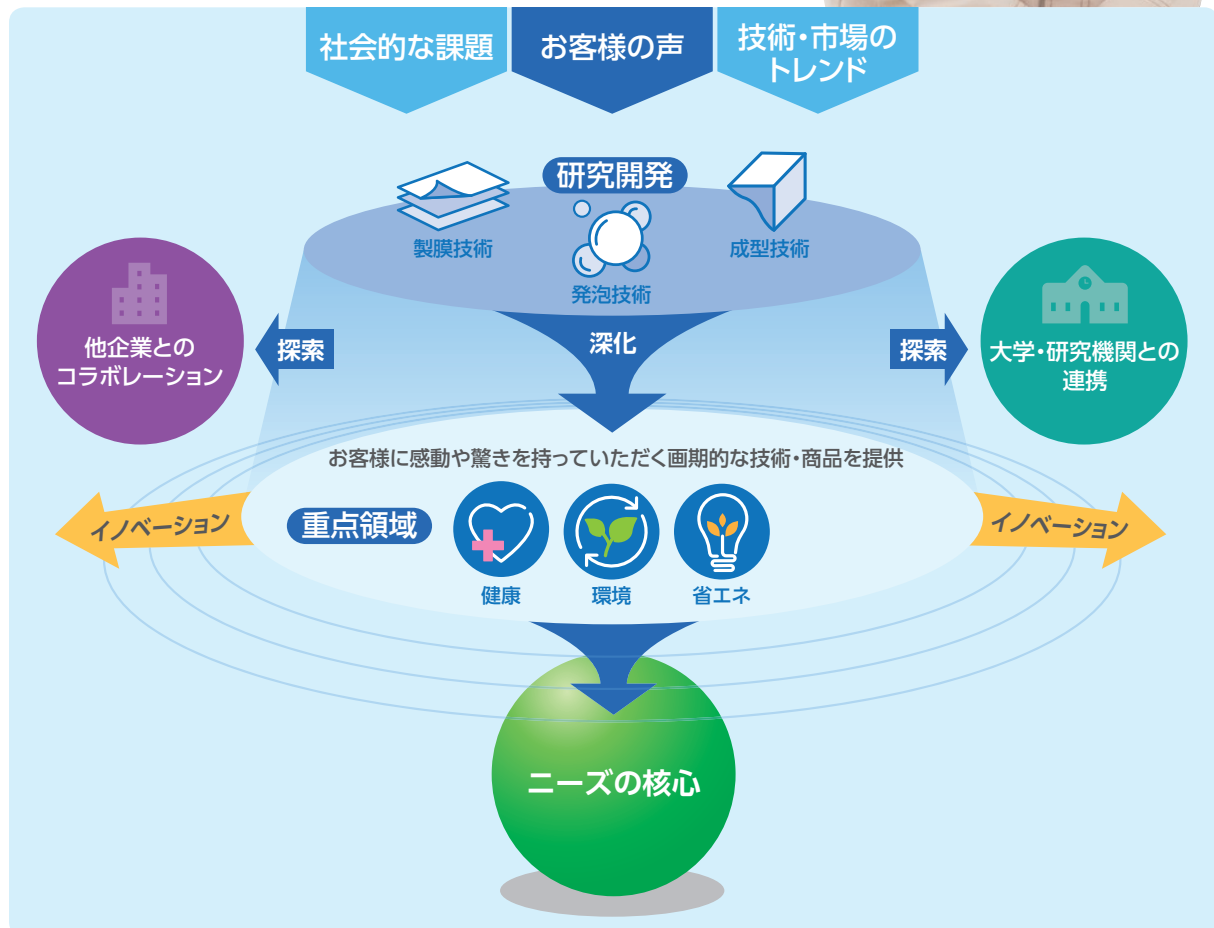
当社のプラスチック加工技術は、「製膜」「発泡」「成型」をコア技術とし、これらをベースに社会的な課題の解決に貢献するさまざまな新製品の開発を目指しています。

中でも、当社の内部資源や、当社を取り巻く外部環境、さらには他社には真似のできない技術力、ノウハウを踏まえ、「健康」「環境」「省エネ」の3つを重点領域と定め、研究開発の注力すべきテーマとして照準を合わせています。

研究開発本部の研究室



執行役員
研究開発本部長
中山 直樹



開発事例

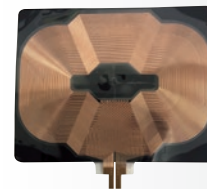
当社は「製膜」「発泡」「成型」のコア技術をコラボレーションさせつつ、「健康」「環境」「省エネ」の3つの重点領域に照準を合わせ、数多くの製品を生み出しています。



研究開発本部
応用研究開発グループ
副部長 芦澤 弘樹

他企業とのコラボレーション

当社では、自社の所有する技術と、他の企業が所有する技術を組み合わせる共同開発を積極的に推進しています。他の企業とコラボレーションすることで、従来にはない、付加価値の高い製品を生み出すことが可能となります。事例として、当社が開発した新しいめっき技術と、TDK株式会社様の磁性体技術を組み合わせることで、薄型のワイヤレス給電用コイルを実現しています。



アキレス株式会社とTDK株式会社で開発した、薄型で高性能なワイヤレス給電用コイル



研究開発本部
応用研究開発グループ
機能性素材チーム
大村 京平

スポーツ用「MEDIFOAM」から、幅広い用途の「ACROFOAM」へ

当社は、ランニングで足を痛めるランナーが多いことに着目し、「反発弾性」と「衝撃吸収性」を併せ持つスポーツシューズ用ポリウレタン素材「MEDIFOAM（メディフォーム）」を開発しました。この「MEDIFOAM」の持つ優れたパフォーマンスを、さらに幅広い用途に展開すべく、開発したのが「ACROFOAM（アクロフォーム）」です。「圧縮永久ひずみ」が小さく、へたりにくいという「ACROFOAM」の優れた性能を生かし、さまざまな環境、社会的な課題の改善・解決に貢献できる、製品の開発・展開に取り組んでいます。



「ACROFOAM」
(1)
「ACROFOAM」をミッドソール前足部(内部)に搭載した子ども用スポーツシューズ「HYPER JUMPER (ハイパージャンパー)」



研究開発本部
応用研究開発グループ
機能性フィルムチーム
課長 福田 周平

環境にやさしい生分解性フィルム「ビオフィレックスマルチ」

生分解性の農業用マルチフィルム「ビオフィレックスマルチ」は、アキレスの製膜技術を活用して開発したもので、地温の上昇や雑草防止などの効果を発揮します。また、最終的には微生物により、水と二酸化炭素に分解されるため、フィルム回収と廃棄の負担が減り、持続可能な社会の実現にも貢献します。さらに当社では現在、保湿効果や分解性制御の開発も進めています。



「ビオフィレックスマルチ」(白い部分)
※フィルム色には、透明、黒、銀ネズ、白黒、ダークグリーンがあります



研究開発本部
応用研究開発グループ
機能性レザーチーム
萩原 聖貴

環境対応PVCLレザー

「環境対応PVCLレザー」は、選定した原材料に当社の製膜技術を使用することで、大幅に揮発性有機化合物(VOC)を削減し、かつ物性を維持したPVCLレザーです。従来のPVCLレザーと同様に、本革と比較して重さを約30%軽減し、製品の伸びバランスも良く、防汚などの機能性付加も可能です。VOCの削減により環境負荷を低減するとともに、天然皮革と比較して軽量であるため、自動車などに搭載されることでエネルギーの削減にも貢献します。



環境対応PVCLレザー

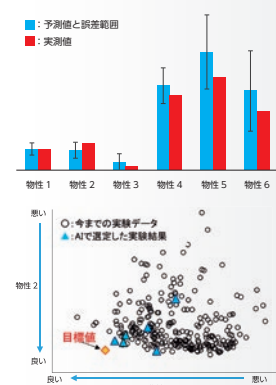


研究開発本部
基礎研究開発グループ
AIチーム
課長 原澤 純一

DX (デジタルトランスフォーメーション)への取り組み

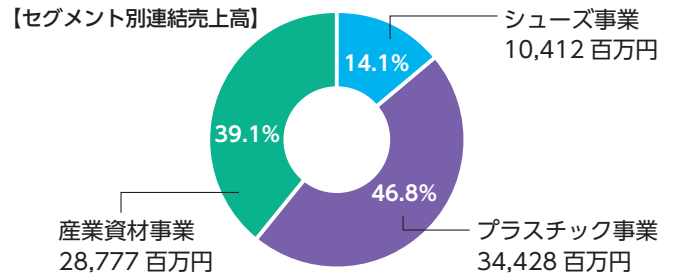
2018年、研究開発本部の中に「基礎研究開発グループ・AIチーム」を発足させました。また、MI^{*1}推進の取り組みを始めており、新しい性能を付与した商品開発を、短期間で行うことを目指しています。そのほかにも、工場のIoT^{*2}化を進めることにより、製品の物性向上や品質安定化につなげる取り組みを行っています。AI(人工知能)技術を活用することで、お客様に届ける製品の質を向上できるよう、日々検討を続けていきます。

※1 Materials Informaticsの略。材料科学とデータ科学の融合によって、材料開発から実用化に要する時間・コストを大幅に削減しようという試み。
※2 Internet of Thingsの略。さまざまなモノが、ネットワークを通じてサーバーやクラウドサービスに接続され、相互に情報交換をする仕組み。



事業内容

アキレスはプラスチック加工技術を武器に、日常生活品から車輻関連分野、医療関連分野、農業・林業・漁業関連分野、電機・電子関連分野、建築・土木関連分野まで、毎日の生活や産業を支える多彩な製品を世界に送り出しています。



シューズ部門

シューズ事業部 [キッズ、メンズ、レディースシューズ]
アキレスが目指す靴づくりのテーマは、「感性と技術の融合」=「機能美の創造」。創業以来、蓄積してきた技術をベースに市場のニーズに応じています。

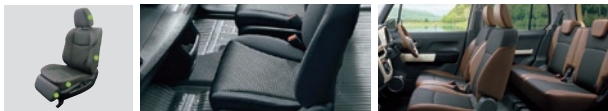


プラスチック部門

プラスチック部門は、プラスチックやゴムなどの素材を用途に合わせて中間材や完成品として、お客様にお届けしています。社会的課題に対応した生分解性プラスチック、バイオマス、抗ウイルス商品、陰・陽圧式エアテントや救命ボートなど、防災用途にも注力しています。

車輻資材事業部

[車輻内装用資材、一般用塩化ビニールレザー、合成皮革など]



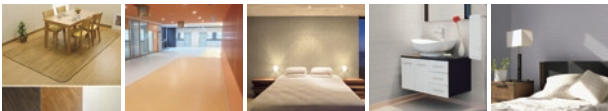
化成品事業部

[一般用・工業用・農業用・医療関連用フィルムなど]



建装事業部

[建築用内装資材]



引布販売部

[防災テント、ボート、住宅排水管フレキシブルジョイントなど]



産業資材部門

産業資材部門は、「製膜」「発泡」「成型」のコア技術を用いて、地球環境に配慮した断熱製品および多種多用途展開が可能な発泡素材製品に加えて、導電化技術を柱にグローバル市場のニーズにも応えた電機電子機器や医療分析機器などの精密機械用途関連製品のご提案にも注力しています。

ウレタン事業部

[軟質ウレタンフォーム製品、および2次加工製品]



断熱資材事業部

[硬質ウレタンフォーム断熱製品、現場発泡用硬質ウレタンフォーム、発泡スチロール断熱材など]



工業資材販売部

[静電気対策製品、反応射出成形品など]



開発営業部

開発営業部は、トンネル老朽化対策技術をはじめ、さまざまなインフラ老朽化対策技術を提供し、さらに、アキレスの技術を結集して、市場ニーズに応えた新たなソリューションを提案します。



財務情報

基本的な考え方

アキレス株式会社(以降、当社)は、企業価値の向上に努め、存在意義を示し、株主・投資家の皆様のご期待に応える会社を目指しています。株主・投資家の皆様に対しては、法令を遵守した方法で、タイムリーに、公正で正確な情報を分かりやすく開示することに努めています。そして、情報開示を含むIR活動を通して、株主・投資家の皆様との対話を行っています。

報告書・中間報告書

当社ではホームページでの情報開示と併せて、事業概要を分かりやすくとりまとめた報告書を株主の皆様へ半年ごとに年2回お送りしています。報告書では、当社の代表取締役社長からの事業環境および業績概要の説明に加え、連結財務諸表、各事業の業績・新商品情報、ならびにアキレスグループのトピックスなどをご案内しています。

また当社では、毎年6月に定時株主総会を開催し、株主の皆様と直接対話を行っています。株主総会終了後には、新商品・新技術をご紹介します、株主の皆様から直接ご意見をうかがう機会を設けています。

株主の皆様への報告書



株主総会議決権行使比率の向上に向けて

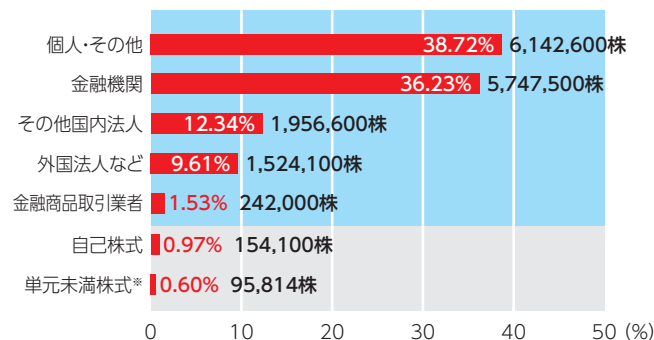
当社は、2019年6月開催の定時株主総会より、従前の方法に加え、インターネットによる議決権行使が行えるようにしました。

株式の状況

【株式の総数など ※2021年3月31日現在】

発行可能株式総数	70,000,000株
発行済み株式の総数	15,862,714株
株主数	10,088人

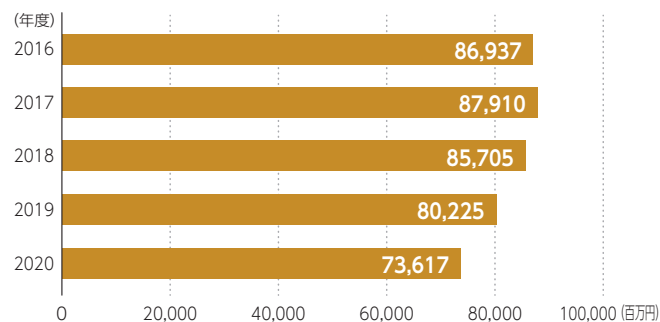
【株式分布状況 ※2021年3月31日現在】



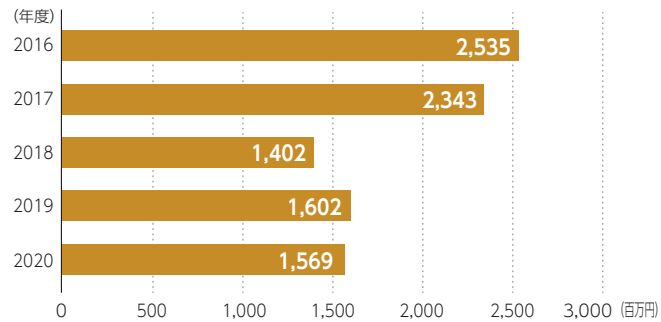
*単元未満株式とは、1単元(株式数100株)未満の株式であり、上記単元未満株式には、自己株式96株が含まれています。

連結売上高・利益年度別推計

【売上高】

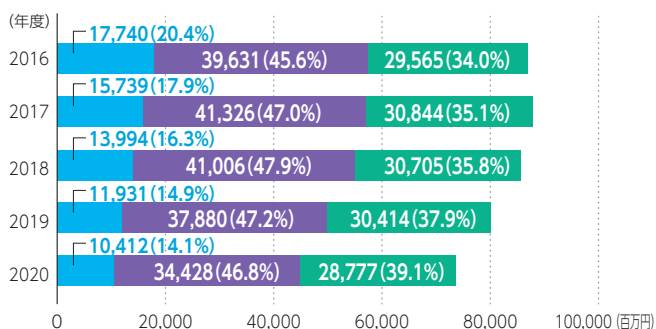


【営業利益】

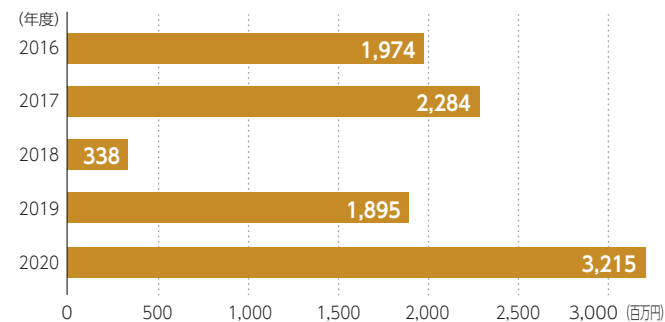


【セグメント別】

■ シューズ事業 ■ プラスチック事業 ■ 産業資材事業



【親会社株主に帰属する当期純利益】



※その他、財務情報および大株主に関する情報は有価証券報告書をご参照ください。

アキレスのCSR

基本的な考え方

私たちアキレスグループは、豊かで快適な社会づくりに貢献できる会社であり続けることを目指しています。そのために必要なのが、企業に社会に未来に、新たな価値を創り続けていくことです。「安心」「健康」「快適さ」「楽しさ」「省エネルギー」をキーワードに、創業以来培ってきたプラスチック加工技術をさらに向上・進化させ、お客様により身近な製品、独創性のある製品をご提案します。私たちはたゆまぬ改善を重ね、全てのステークホルダーの皆様の信頼とご期待に応えます。

CSRマネジメント

サステナビリティ(CSR)の基本方針

アキレスグループは、社会の一員としてステークホルダーとの対話を通じて、社会的課題の解決に役立つ活動の拡大に努め、社会の持続的発展に貢献します。

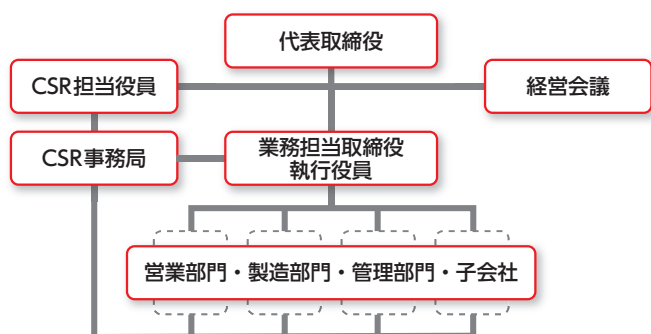
この方針のもと、7つの課題を「アキレスのCSR重要テーマ」と位置づけ事業活動を推進します。

CSR推進体制

当社は企業理念である「社会との共生」=「顧客起点」の実践こそが、当社のCSR戦略と位置づけ、業務担当取締役および執行役員が率先して企業理念に資する活動を推進できるよう、CSR担当役員がサポートしています。

また、CSR事務局は、コンプライアンス推進室と安全環境推進部が担い、CSR活動の支援および報告書の作成を行っています。

【CSR推進体制の仕組み】



アキレスのステークホルダー

主なステークホルダー	アキレスグループの主な責任と課題	主な対話および情報開示の機会
お客様	<ul style="list-style-type: none"> お客様満足度の向上 安心・安全な製品・サービスの提供 製品の取扱方法などに関する適切な情報提供 お客様への迅速かつ適切な対応 お客様(個人)情報の適切な管理 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の営業活動(常時) お客様相談室(お電話・メール受付)の設置(営業時間内常時) ホームページ(常時) イベント(展示会など)の開催(随時) 「足育(そくいく)相談会 「足育(そくいく)相談室(足型測定と出前講座)
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> 適時・適切な情報開示 企業価値向上 議決権行使の尊重(株主総会) IR活動 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ(常時) 決算短信の発行(年4回) 四半期報告書と有価証券報告書の発行(年4回) 株主様への報告書の発行(年2回) 定時株主総会の開催(年1回) 「アキレスレポート」(CSR報告書)の発行(年1回)
お取引先様	<ul style="list-style-type: none"> 公正・公平な取引 オープンな取引機会 CSR推進への協力要請・支援 適切な情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の調達活動(常時) イベント(展示会など)の開催(随時) 情報交換会(随時) CSR調達アンケート
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 人権の尊重 労働安全衛生への配慮 ワークライフバランスの促進 労使の相互信頼 	<ul style="list-style-type: none"> 労使協議会(随時) トップからのダイレクトコミュニケーション(随時) 集合研修(随時) 製造部門安全道場(随時) 講演会の開催(随時) 社内報
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> 地域の文化や慣習の尊重 事業場での事故・災害防止 地域社会への貢献活動 環境負荷低減 法令遵守 納税 	<ul style="list-style-type: none"> 工場見学の実施(随時) ボランティア参加を含む社会貢献活動の実施(随時) 地域自治体との交流・意見交換(随時) J-クレジット購入(年1回) ヒアリング対応・情報提供など(随時) 産学官での協働などを通じた対話・連携・支援(随時)

持続可能な開発目標(SDGs)とは

SDGsは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略語です。2030年までを期間として、2015年に国連で採択された国際目標で、17のゴールと169のターゲットで構成されています。次ページ表内に配置したロゴは、アキレスグループがそれぞれの取り組みを通して貢献しているゴールを表しています。



アキレスのCSR重要テーマ

当社では、ISO 26000の7つの中核主題に基づき、重要度の高い取り組みを「CSR重要テーマ」と位置づけています。

Social	製品・サービスを通じた真の満足と感動の提供 → P.13 製品における安全性確保や品質向上に取り組み、社会の要請に応え感動を与えるモノづくりを追求します	   
	お取引先様との協働 → P.18 お取引先様を含めたサプライチェーン全体における取り組みや、公正な事業活動を推進します	
	人権や多様性の尊重とグローバル人材の育成 → P.18 人権に配慮し多様な人材を活用しグローバル人材を育成します	
	安全で働きやすい健康的な職場環境 → P.20 安全で健康に働くことのできる職場づくりに取り組みます	
	地域との関わりと社会貢献活動 → P.22 地域社会とのコミュニケーションや社会貢献活動を重んじ、地域の発展に貢献します	
Environment	環境への取り組み → P.23 CO ₂ 、水、廃棄物などの環境負荷低減、森林や生物多様性などの環境保全に取り組みます	     
Governance	ガバナンス・リスクマネジメント → P.27 経営の透明性を高める制度の強化、リスク対策に取り組みます	

CSR重要テーマの特定プロセス

① テーマの抽出

企業理念に基づき、社会課題に関する項目を抽出 (ISO 26000 など)

※外部環境の変化に応じて、課題項目の追加などの見直しを行う

② 重要度の整理

「事業活動を通じた社会課題の解決」と「事業活動が与える社会への正負インパクト」の側面から社内外の意見を集め、マトリックスを用いて重要度を評価

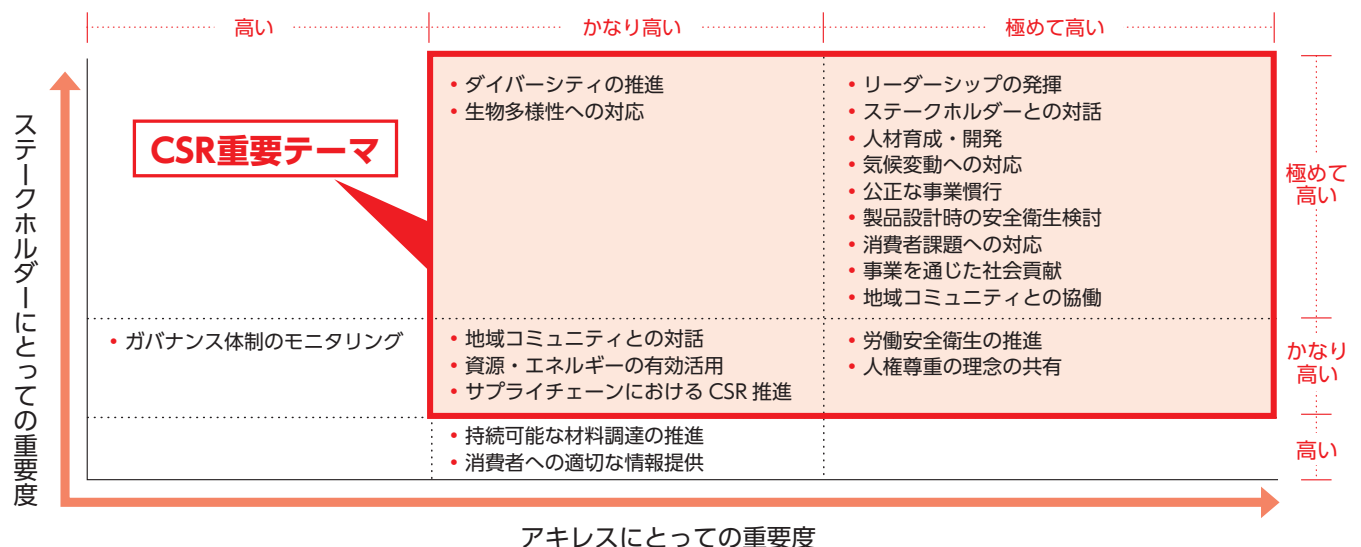
③ 重要テーマの特定

経営会議メンバーによる審議の後、社外取締役の評価を加味し、社外の有識者による評価を経て、優先すべき課題を整理し、「アキレス重要テーマ」として特定

④ 定期的な見直し

定期的に、外部環境および内部環境の変化に伴う新たな社会課題項目を加え、重要度の見直しを実施

マトリックスを用いた重要度の整理

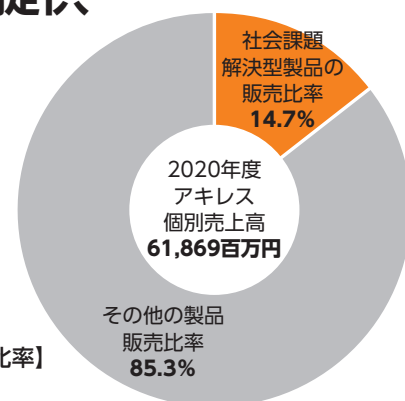


製品・サービスを通じた真の満足と感動の提供

社会との共通価値創造につながる取り組み

当社製品の全てはお客様のニーズに対応した製品であり、広義では課題解決型製品と位置づけられますが、個別の具体的な社会的課題を解決する目的で、当社独自あるいはお客様との協働で開発したものを「社会課題解決型製品」と定義しています。

当社は、持続可能な社会の実現を目指し、災害対策製品を中心に社会課題解決型製品の拡充に取り組んでいます。



【2020年度 社会課題解決型製品の販売比率】

社会課題解決型製品への取り組み

感染症対策製品

■ 化成事業部

抗ウイルス性機能フィルム

「アキレスウイルセーフ」は、抗ウイルス性機能フィルムです。粘着加工をしていますので、人が触るドアノブやタッチパネルなどの表面に貼ることで新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) を含むウイルスを抑える効果があります。

また、「アキレス飛沫防止フィルムⅡ」は、防災性能を持った飛沫防止対策用の透明フィルムです。間仕切りとして使用することで飛沫を浴びるリスクを低減させる効果が期待できます。

アキレスウイルセーフ

<https://www.achilles.jp/product/manufacturing-facility/film/virusafe/>



アキレスウイルセーフ使用例
「アキレスウイルセーフ」をタッチパネル表面や受話器に貼り付けた事例



「アキレス飛沫防止フィルムⅡ」の活用例

アキレス飛沫防止フィルムⅡ

<https://www.achilles.jp/product/manufacturing-facility/film/splash-prevention/>



■ 引布販売部

感染症対策用 陰・陽圧式エアートント

当社の感染症対策用 陰・陽圧式エアートントは、ウイルスなどの拡散を抑制する機能を持ち、医療機関の屋外に発熱外来の受付場所として設置することで、院内感染リスクの低減が期待できます。

大型のテントが容易に組み立てられることが特長のエアートントに、ウイルスにも対応するHEPAフィルターを搭載した空気清浄機を組み合わせています。テント内の空気圧を大気圧より下げることによって、ウイルスなどが、テント外に拡散することを抑制します。



感染症対策用 陰・陽圧式エアートント

<https://www.achilles.jp/product/medical-lifesaving/lifesaving/medical-tent/>



■ ウレタン事業部

ウレタンマスク

新型コロナウイルス感染症が広がり始めた直後は、マスクの供給不足が大きな問題となりました。当社は、マスク素材としても使用されるウレタンフォームを60年以上製造してきた素材メーカーとして社会に貢献したいと考え、一般向け「耳が痛くなりにくい国産ウレタンマスク」の製造・販売を行いました。一般的な不織布製マスク*1に比べて通気性が高いので呼吸しやすく、さらに花粉を96%カット*2、紫外線も95%カット*3し、そのまま水洗いでき、繰り返し使用できることが特長です*4。

*1 3層構造の不織布製マスクとの比較。

*2 (一財)カケンテストセンター調べ。また、不織布マスクと比較した場合、飛沫拡散防止効果は充分ではありません。

*3 自社調べ。

*4 (一財)カケンテストセンターで10回の洗濯試験を実施済み。



7倍空気を通しやすいウレタンマスク

<https://www.achilles.jp/news/2020/1026.html>



環境対策製品



■ 化成系事業部

海洋廃プラスチックへの対応

当社はCLOMA^{※5}に参加し、生分解性プラスチック素材のフィルム製品を主に農業や林業用に広く普及させるよう、開発ならびに販売に取り組んでいます。

※5 「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス (通称：CLOMA)」は、海洋プラスチックごみを削減するため、廃棄物の適正管理に加え、プラスチック製品の3R(リデュース・リユース・リサイクル)の取り組みの強化や、生分解性に優れたプラスチック、紙などの代替素材の開発と普及の促進など、業種を超えた幅広い関係者の連携を強めイノベーションを加速するためのプラットフォームとして設立されました。



クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス
<https://cloma.net/>



生分解性プラスチック素材
 農業用フィルム
<https://www.achilles.jp/product/agriculture/horticulture/bioflex-multi/>



■ 断熱資材事業部

建物の省エネ対策

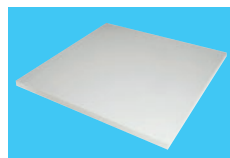
脱炭素社会の実現を目指す上で、住宅・建築物の省エネルギー性能向上が課題の一つに掲げられています。戸建住宅分野においては新築住宅の平均でZEH^{※6}を実現することや既存住宅の断熱性能向上を図ることにより2030年度における家庭分野からのCO₂排出量を約4割削減することが期待されています(2013年度比)。

その中で高品質な断熱材製品を開発し普及していくことが当社に求められる大事な使命であると捉え、高性能住宅向け断熱材「キューワンボード」や「ジーワンボード」のみならず、社会課題である既存住宅の断熱性改善に取り組むべく、「アキレスJDパネル」や「アキレスジュウテンR」など、さまざまなニーズに応える製品を積極的に開発・販売してまいりました。

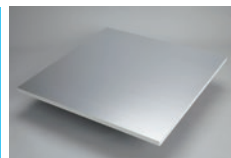
長期にわたって優れた断熱性能を発揮し省エネルギーに寄与するだけでなく、室内の温度差を減らすことでヒートショックのリスクを低減し、健康な暮らしに貢献します。

※6 ZEH(ゼッチ) (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)とは、「外皮の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることを旨とした住宅」です(資源エネルギー庁ホームページより)。

【遮熱面材付高性能硬質ウレタンフォーム】



「キューワンボード」



「ジーワンボード」



「アキレスJDパネル」

【柔軟性ポリウレタンフォーム】



「アキレスジュウテンR」の施工風景

各製品の詳細はホームページをご覧ください。
<https://www.achilles.jp/product/construction/insulation/>



災害対策用製品



■ 引布販売部

救助用ボート・防災用テント・背負い式消火水のう

我が国では、地震や豪雨による水害などの災害が頻繁に発生しています。当社は、水害・水難救助用のボートや防災用エアートtentなどの災害対策用製品を製造販売しています。



水難救助用ボート
<https://www.achilles.jp/product/medical-lifesaving/lifesaving/pro-use-boat/?tab01>



防災用エアートtent
<https://www.achilles.jp/product/medical-lifesaving/lifesaving/emergency-tent/>



背負い式消火水のう
 「ファイヤーハンター」
<https://www.achilles.jp/product/medical-lifesaving/lifesaving/fh-01/>



デジタル社会を支える製品



■ 工業資材販売部

静電気対策技術を取り入れた製品

5G^{※7}やAI^{※8}、自動運転などの生活のデジタル化に欠かせないのが、静電気対策です。半導体の生産工程では、少しでも静電気トラブルがあると、部品の破損や品質低下を引き起こすなど、機器自体の性能などに影響を及ぼします。

「プロトスキャリア」は、当社プラスチックコア技術に独自の静電気対策技術を取り入れた製品です。半導体の生産工程や輸送時において、静電気による破損を防止し、快適な未来社会をつくるデジタル技術を下支えしています。

※7 携帯電話などに用いられる移動通信システムの5世代目を表す「5th Generation」の略。
 ※8 Artificial Intelligence(人工知能)の略。



プロトスキャリアNA-300LA
<https://www.achilles.jp/product/electronics/packing-materials/>



海外での取り組み

アメリカ合衆国

感染症対策への取り組み



■ ACHILLES USA, INC (HEADQUARTERS)

2020年1月に北米で、初の新型コロナウイルス感染が報告されてから感染者数は驚異的なスピードで増加し、3月頃には医療機関の受け入れが逼迫し、同時に感染予防用品がたいへん品薄となりました。

近隣病院からの要請を受けた地元家具メーカーが、当社*の透明フィルムを使用し、急遽フェースシールドの製作に取り組みました。ほかにも、当社*のフィルムは、パーテーションやソーシャルディスタンスを促す床用ステッカーに使用されるなど、お客様との協働により、コミュニティが必要とする製品をタイムリーに提供することができました。

*ACHILLES USA, INC



透明フィルムを加工したフェースシールド



当社*フィルムを加工して制作されたソーシャルディスタンスを促す床用ステッカー

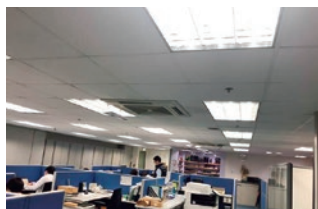
香港

省エネへの取り組み



■ ACHILLES HONG KONG CO., LIMITED

2018年に従業員の提案で、白熱電灯をLED電灯に切り替える取り組みを行いました。その後、SDGsへの意識が高まり、持続可能な環境への取り組みを進めています。2019年には、昼休みに従業員が自主的に消灯を行うようになり、2020年はエアコンの設定温度を取り決めるなど、主体的な活動へと行動が変容しました。また、取り組みの結果、2020年度の光熱費は、2017年度以前比で約35%削減され、取り組みの成果を従業員同士で共有することができました。



省エネとしてLED電灯に切り替えたオフィス



電灯のスイッチに節電シールを貼付

中華人民共和国

子ども靴「瞬足」を寄贈



■ 阿基里斯(上海)国際貿易有限公司

阿基里斯(上海)国際貿易有限公司は毎年中国国内の貧困地域および団体へ「瞬足」を寄贈する活動をしています。2020年は新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延する中、日本のHSK(中国語検定試験)事務局が送った救援物資の箱に「山川異域、風月同天」(漢詩)が添えられていたそうです。「離れていても、つながっている」という「絆(きずな)」を意味しています。当社も同じ気持ちで、中国貴州の貧困地域にある孤児院の子どもたちに「瞬足」を贈呈しました。

「未来は足元から」。この「瞬足」のコンセプトのように、子どもたちの未来を応援し続けます。



貴州の孤児院の子どもたちに「瞬足」を贈呈(中華人民共和国)

台湾

コロナ禍の事業活動



■ 阿基里斯先進科技股份有限公司

2020年は新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、対面による従来型のフィールドセールスが困難になりました。そこで、阿基里斯先進科技股份有限公司ではWEB広告を複数活用して自社ホームページへの誘引に取り組み、WEB上でお客様とコンタクトするインサイドセールスの強化に努めました。

お客様がWEB検索される際の当社ヒット率を高める工夫や、バナー広告による展示会告知などを実施した結果、お問い合わせ件数は、以前と比べ約5倍に増加し、具体的な受注や開発案件の創出につながっています。

コロナ禍においてもお客様と従業員の安全・安心を確保しつつ、お客様のニーズにお応えできるよう、創意工夫に努めています。



阿基里斯先進科技股份有限公司ホームページ
<https://www.achilles-at.com.tw/>



品質への取り組み

品質への考え方とマネジメントシステム

アキレスグループでは、「製品の安全性と品質の確保」を全従業員が徹底するよう、「アキレス行動指針」を定めています。また、お客様のニーズや市場動向を的確に捉え、お客様に満足していただける製品・サービスを提供する仕組みの基準として、国内グループほぼ全てで品質マネジメントシステムの国際規格 (ISO 9001) を取得し運用しています。そして「品質マニュアル」で、各事業部の事業部長が品質保証の責任者として品質目標を設定し、安全で安心な製品・サービスの提供に努めることを定めています。

アキレスグループ品質基本方針



<https://www.achilles.jp/assets/pdf/csr/philosophy/policy-quality.pdf#view=Fit>



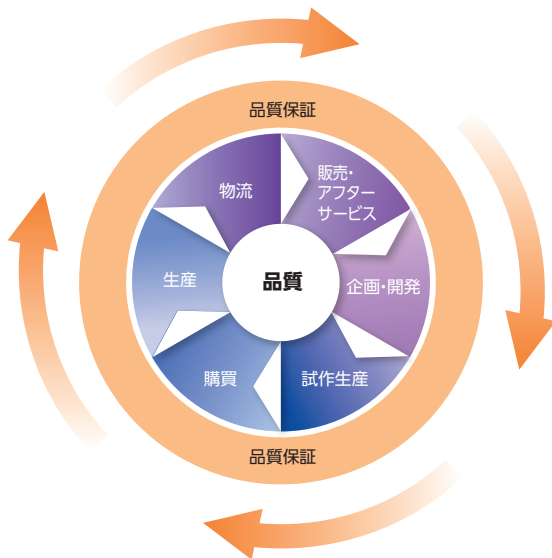
[ISO 9001 : 2015登録状況]

登録組織名	登録年月	登録番号
アキレス株式会社	2003年 4月	JUSE-RA-2090
ACHILLES USA, INC.	1998年 4月	33354

※2020年度に子会社を含む国内グループのISO 9001登録を統合しました。

品質保証の仕組み

当社の品質保証本部は、各事業部の製品企画・開発、生産、販売の各プロセスにおいて、適宜適切な提案を行い、品質保証体制の維持・向上に努めています。



企画・開発

- お客様からのご要望および安全・安心を考慮した製品設計を行っています。
- 素材および使用材料の安全性の検証をしています(使用禁止・制限化学物質、および健康に影響を与える物質を含まないことを確認)。
- 製品の加工時、施工時、および使用時を想定した要求物性への適合試験を実施しています。

- 製品ごとに品質保証部を交えたデザインレビューを実施しています。

購買

- 企画・開発、製造部門と連携し、使用する材料の安全性、環境適合性、および調達先の品質保証体制などを調査した後、購買品を選定しています。
- 調達先には「アキレス調達基本方針」の遵守を促すことで、企業の社会的責任 (CSR) への取り組みをサプライチェーンに広めています。また調達活動においていかなる違反行為にも加担しません。

生産

- 製品ごとに生産ラインに適した工程管理と検査方法を定め、効率生産と品質安定化を推進しています。
- 地球環境への負荷低減を図るため、地球温暖化防止と省エネルギー、3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動や大気汚染防止などを推進しています。
- 製品の品質向上および技能レベル向上を目的に、全ての従業員に対し教育指導を実施しています。
- 従業員全員でQC活動に取り組み、工程や品質問題の解決改善活動を実施しています。

販売・アフターサービス

- お客様からの当社製品・サービスへのご相談やお問い合わせは、販売担当部署でお受けする以外に「お客様相談室」でもお受けしています。いずれの窓口でも、お客様のお声に耳を傾け、迅速に対応するように努めています。
- 想定外の重大問題が予想される場合は、お客様の安全を第一に考え、情報開示と迅速な対応を行います。
- 環境対応設計製品に関しましては、お客様が他類似品との環境効果を容易に比較できるように努めています。

品質改善プログラム

生産ラインの工程管理と検査方法が適正であることを、「工程パトロール(内部監査)」で確認しています。独立した立場として、品質保証部が、生産ラインの「現場」で、原材料を含めた「現物」を見ながら、標準化された作業で製品が生産されている「現実」を確認します。これに加え、他の生産ラインから得たより良い仕組みや最新技術の情報を水平展開して改善提案し、生産ラインの改善提案を押し進めることでPDCAを支援、品質向上を促進しています。



工程パトロールの風景

お客様と共に

基本的な考え方

当社は「社会との共生」＝「顧客起点」の企業理念のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献することを目指しています。また、お客様の顕在的・潜在的ニーズを把握するため、お客様との対話の機会を大切に考えています。その役割を担う窓口の一つとして「お客様相談室」を設けています。

対応品質向上への取り組み

お客様相談室では2020年度は「お問い合わせ」と「ご意見」を合わせて、5,981件（前年度より約261件増加）のお電話やメールなどをいただきました。従来はシューズ製品に関することが中心でしたが、プラスチック部門や産業資材部門の製品に関するお問い合わせも増え、アキレス製品全般への相談窓口として、対応範囲が拡大しています。

また、お客様相談室では、対応品質向上に向け、2012年度より、お客様アンケートによる対応品質評価の把握と改善活動を行っています。アンケートでは、①言葉づかいや態度、②気持ちの良さ、③情報や商品知識の提供、④迅速さ、⑤満足度——の5項目を5段階で評価していただいています。2012年度の総合評価点4.5からスタートし、2018年度は4.9まで向上しましたが、2019年度は4.8に落ちてしまいました。そこで、毎月度、担当者別・項目別の点数を確認し合い、お互いに問題点を指摘し合いながら改善を重ねた結果、2020年度の総合の評価点は、再び4.9に戻りました。自部署の業務内容をお客様から直接評価していただくこの取り組みは、今後も継続して、さらなる対応品質の向上につなげていく予定です。

大学生への啓発活動

当社は、消費者課題に取り組んでいるACAP*に所属していません。この活動を通じて、大東文化大学と立正大学の2校で、「企業におけるお客様相談室の役割」や「SDGs」などをテーマとして、オンラインによる講演を行いました。間もなく社会人になる大学生に向けて、企業人の立場から、また、一消費者の立場から、持続可能な消費活動のあり方と必要性などをお話ししました。

※ACAP：消費者関連専門家会議（約540社が参加）

ACAP
<https://www.acap.or.jp/>



お客様とのコミュニケーション強化

お客様との距離を近くし、接点を増やすための取り組みも進めています。

特にシューズのお問い合わせに備え、「シューフィッター」（足と靴の専門資格）の取得を進め、2021年3月末時点では、お客様相談室の従業員4人全員が「シューフィッター」となりました。

以前から実施している「足育（そくいく）相談室」の活動も継続しています。本社ショールーム（東京）に本社を来社いただいて「足型測定とカウンセリング」を行うサービスと、小中学校などに出向いての足と靴に関する「出前講座」を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2020年度の「出前講座」の実績は5件、聴講者数は264人でした。2014年度のスタート時からの累計では、実施件数が235件、聴講者数は12,530人となっています。

また、お客様の声を商品に反映させる取り組みも行いました。小学校6年生の女の子からお客様相談室に届いたメールをきっかけとして商品開発をスタートし、年齢や性別、障がいの有無

などにかかわらず、多くの人が使いやすいコンセプトの商品として「瞬足ユニバーサルデザイン」を、2021年2月に発売しました。



「瞬足ユニバーサルデザイン」ファスナーを開くことで履き口が大きく開きます。

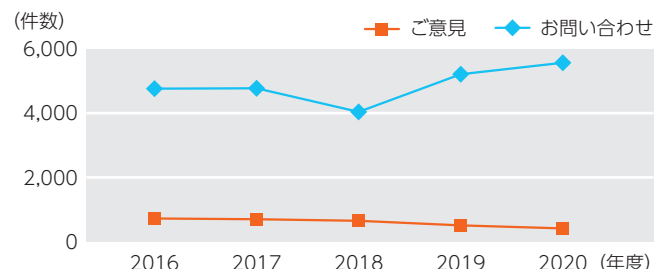


「瞬足ユニバーサルデザイン」

<https://achilles-webshop.com/shop/r/rssud/>



【お客様相談室に寄せられるお問い合わせとご意見の件数推移】



お取引先様との協働

基本的な考え方

アキレスグループは「企業行動憲章」に従い、法令遵守はもとより倫理的な行動に努め、公正かつ自由な取引を通じてお取引先様と長期的な信頼関係を構築し、相互協力により共存共栄の関係を図っております。また、「アキレス調達基本方針」を定め、環境に配慮した持続可能な調達と法令遵守ならびに人権尊重などへの取り組みをサプライチェーン全体に広めています。

アキレス調達基本方針

<https://www.achilles.jp/assets/pdf/csr/philosophy/policy-procurement.pdf#view=Fit>



CSR調達の取り組み

当社では、サプライチェーン全体のCSR活動の実効性が、さらに向上することを目指しています。年に1回、「CSR調達アンケート」を主要取引先様に実施し、調達基本方針の遵守のチェックを行っています。

アンケートからは、お取引先様のコンプライアンス経営ならびにCSR活動への取り組みの拡充がうかがえました。引き続き啓蒙活動を通じて、サプライチェーン全体の品質向上に努めます。

(アキレスCSR調達アンケートの質問構成)

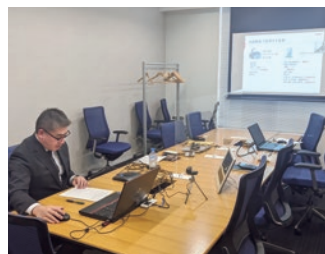
- ✓ 人権と労務に関して
- ✓ 従業員の安全衛生に関して
- ✓ 環境保全対応に関して
- ✓ 公正取引や倫理的行動に関して
- ✓ 製品の安全性・品質に関して
- ✓ 情報セキュリティに関して
- ✓ 社会貢献に関して
- ✓ グリーン調達に関して



CSR調達アンケート

リモート調達方針説明会

コロナ禍にあつて、以前は対面で実施していた調達方針説明会をリモート方式で実施しました。約200社のお取引先様に、持続可能な調達ならびに法令遵守や人権尊重などを含む当社方針を説明し賛同を求めました。



リモート調達方針説明会の風景

人権や多様性の尊重とグローバル人材の育成

基本的な考え方

アキレスグループは、従業員を重要なステークホルダーと位置づけています。「企業行動憲章」で「従業員の能力を高め、多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現し、安全と健康に配慮した働きやすい職場環境を整備します」と定め、その実践として必要な制度や活動内容を決定し推進しています。その根幹にある考え方は、従業員との「共存共栄」です。

人権尊重・公平

アキレスグループは、法のもとでの雇用関係を遵守し、違法労働や児童労働、性的差別、人種差別、宗教的差別などの人権侵害を行いません。また、これらの行為に加担しません。「アキレス行動指針」において、人権尊重を含む倫理的行動および遵法をグループの全従業員が誓約しています。

アキレスグループでは、全ての従業員に対し公平・均等に機会を与えるように努めています。パワーハラスメント・セクシャルハラスメントを禁止し、社内外に通報窓口を設けています。

雇用の状況

アキレスグループでは、安定した雇用の維持と雇用機会の拡大を図るため、計画的な雇用に努め、均等な雇用機会を提供しています。

当社(国内グループ)は、2021年4月より定年年齢を60歳から65歳に改訂し、2029年度まで定年年齢を段階的に引き上げる経過措置を実施します。

【従業員数】※2021年3月31日現在(連結)

男性 1,339人	女性 323人	合計 1,662人
-----------	---------	-----------

【雇用状況関連データ】※2021年3月31日現在(単体)

平均年齢	男性 40.0歳	女性 42.9歳	全体 40.4歳
勤続年数	男性 18.1年	女性 21.1年	全体 18.6年
平均年収	約570万円		
役員(執行役員を含む)	男性 27人	女性 2人	合計 29人
部長職	男性 37人	女性 0人	合計 37人
課長職	男性 194人	女性 8人	合計 202人
定年退職者再雇用制度利用者(2020年度)			162人
中途採用者比率(2020年度)			11.8%

個人情報保護

アキレスグループでは、個人情報管理規定を設け、そのうち「従業員の個人情報管理」に関する部分を独立した条文として、従業員の個人情報を保護・管理しています。また「従業員の個人情報」については、社内システム上で複数階層のセキュリティを設定し、アクセス可能な人員を限定しています。

福利厚生

当社では、各地の事業場所在地において、单身寮、社宅などの施設および、従業員持株制度などによる従業員生活安定の支援を行っています。また少子高齢化社会における仕事と家庭の両立支援策として、育児・介護休業制度などを設けています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、单身寮共用部の特別清掃（消毒など）を継続的に実施するとともに、共用部に手指消毒剤を設置しました。また、共用部でのマスク着用を徹底しました。



单身寮／東京本社

【2020年度福利厚生関連データ】※2021年3月31日現在(単体)

育児休業制度利用者	男性 2人	女性 8人	合計 10人
介護休業制度利用者	0人		
年間平均総実労働時間	1,934.0時間		
平均有給休暇取得日数	10.6日 (58.4%)		

労働組合

■ 労使関係

当社には、アキレス労働組合とアキレス本社労働組合の2つの労組があります。共に労使の相互信頼をベースに、会社方針に則り会社発展に貢献することで、従業員の生活維持・向上につなげていくとの基本方針のもと、充実した労使のコミュニケーションを図り、労使協調した取り組みを進めています。

アキレス労働組合には、製造部門で働く従業員(役員、管理職を除く)859人*が加入しています。また、アキレス本社労働組合には、営業部門で働く従業員(役員、管理職を除く)227人*が加入しています。

※2021年7月1日時点の加入員数

■ 労働組合との協議状況

当社では、年2回の給与および賞与の協議と関連し、年3回の運営協議会(5月、9月、11月)を定例的に開催しているほか、人事諸制度の変更や福利厚生に関する内容など労働条件に関する変更や新設などは、労使で協議し、合意の上で実施しています。

また、安全衛生、環境、資格制度、再雇用など、労使双方による委員会での検討し、公平かつ適正な運用を図っています。

【主な労使協議】

運営協議会(年3回)／本部労使協議(原則月1回とし、都度実施)／支部労使協議(原則月1回とし、都度実施)／支部協議(都度実施)

■ 労使共催行事

当社では、健康増進・コミュニケーション向上などを目的とした労使共催の行事により、労使間の交流を図っています。新入社員を迎えるソフトボール大会・ボウリング大会を定例行事とし、所属部署の枠を超えて従業員同士のコミュニケーションの場としていましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症対策として集合開催の行事を全て中止としました。現在、ニューノーマル時代に則した良質なコミュニケーションの機会を模索し、組合主催によるフォトコンテストやオンラインを活用したコミュニケーションなどに取り組んでいます。

健康経営

アキレスグループでは、健康経営に取り組んでいます。企業の社会的責任として、従業員の健康衛生管理はもちろんのこと、各自が生活習慣上の問題に気付き改め、健康な長寿を目指すよう、セミナーなどを通じて啓蒙しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染防止の観点より、集合研修ではなく、オンラインによる「超リフレッシュ体操」セミナー(他団体主催)への参加やコロナ禍における運動の意義・注意点の案内(掲示板など)を行いました。



ラジオ体操の風景(東京本社)



2020年度東京都スポーツ推進企業*1に認定



スポーツエールカンパニー*2に認定(スポーツ庁)

※1 東京都では2015年度から、従業員のスポーツ活動の促進に向けて優れた取り組みやスポーツ分野における支援を実施している企業などを、「東京都スポーツ推進企業」として認定しています。

※2 スポーツ庁は、従業員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取り組みを行っている企業を「スポーツエールカンパニー」として認定しています。

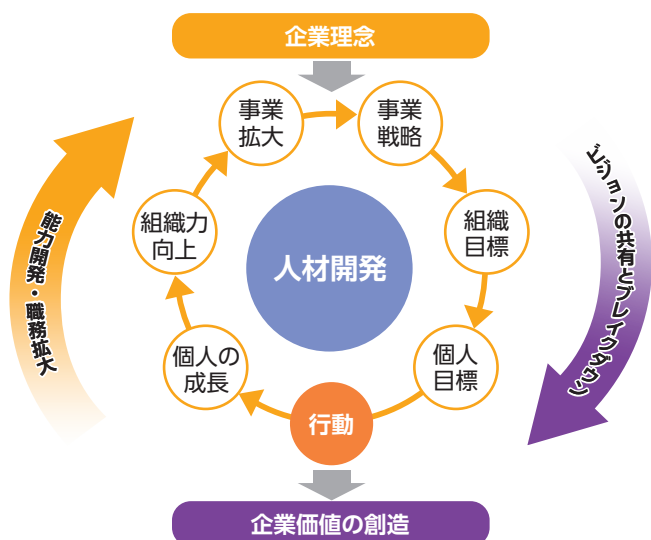
人材開発

変化の激しい社会環境の中で生き残っていくためには、従業員一人ひとりの人間力の向上を図り、企業価値を次々と創造し続ける集団になることが必要です。そのために、当社では人材開発を積極的に推進しています。「人」という経営資源のパフォーマンスを向上させるとともに、一人ひとりの成果を組織成果に結び付けることで組織全体を活性化し、従業員がその能力を十分に発揮しながら生き生きと働ける環境を創り出しています。アキレスグループは、従業員一人ひとりの人間力の育成とそれを生かせる組織づくりに取り組んでいます。

人材開発基本方針



<https://www.achilles.jp/assets/pdf/csr/philosophy/policy-hrd.pdf#view=Fit>



人材開発体系

当社の人材開発は「人材開発基本方針」のもと、社会に必要なとされる企業であり続けるために、企業価値の持続的向上に資する幅広い知識・経験と複数の専門性を兼ね備えたリーダーの育成を目指しています。

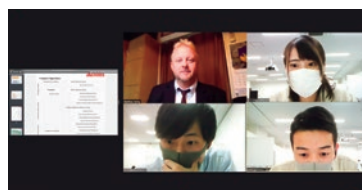
■OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング=業務内指導)

当社の人材開発の基本はOJTです。上司と連携して業務目標を決め、課題達成にチャレンジし、適時にレビューを行います。コミュニケーションを通して気付きを促し視座を高めていきます。

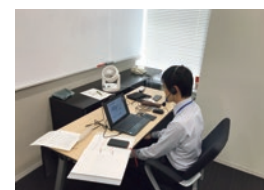
■Off-JT(オフ・ザ・ジョブ・トレーニング=集合研修)

当社では、各自の役割に応じて求められるスキルや専門知識の習得は、従前、集合研修で支援していましたが、コロナ禍にあって、オンライン研修やeラーニングによる研修を行いました。グローバル化への対応はコロナ収束後、急回復することが予想されるため、対面のみならずオンラインにおいても十分な意思疎通が行える語学力に加え、異文化への理解を深める機会を研修

を通じて提供することが直近の課題となりました。また、オンラインによる異業種交流の機会創出を模索し、イノベーションを育む風土の醸成を推進します。



オンラインによる研修風景(東京本社)



研修の受講風景(東京本社)

■SD(セルフディベロップメント=自己啓発)

当社では、従業員の能力向上意欲に敬意を表し、補助金支給制度を設けて通信研修を奨励しています。これにより一人ひとりが必要と考える科目を選択し、自分の能力向上につなげていきます。

【教育研修体系】(当社)

	役員	事業部長	部長	課長	各階層	新人
幹部育成						
グローバル						
管理職						
階層別						
コンプライアンス						
専門性						
OJT支援						
自己啓発サポート						

【2020年度の主な集合研修】

研修区分	研修テーマ数	参加者数
幹部育成研修	3	21人
一般職研修(うち、新人研修)	20	331人 (39人)
コンプライアンス研修*	3	208人
専門性向上研修	7	56人
通信教育	3	256人
安全衛生研修	9	1,417人
災害対応研修	1	12人

*コンプライアンス研修はアキレス国内グループ全従業員の実績です。ほかの研修はアキレス株式会社の従業員の実績です。なお、参加者数は、研修区分内の各研修テーマに参加した従業員数の合計です。

安全で働きやすい健康的な職場環境

労働安全衛生の考え方と
マネジメントシステム

アキレスグループ安全衛生方針



<https://www.achilles.jp/assets/pdf/csr/philosophy/policy-safety.pdf#view=Fit>



主な安全衛生管理活動

■安全衛生

当社では、各事業場で安全衛生委員会を設置し、従業員へは法・指針に基づいた安全衛生教育の実施、法に基づく各種有資格者の養成など、安全衛生体制を確立しています。また、作業・設備・化学物質のリスクアセスメントを実施し、結果に基づく改

善を行い、本質安全化を図っています。



フォークリフト運転業務従事者
安全衛生教育(滋賀第二工場)

【安全衛生委員会委員割合】

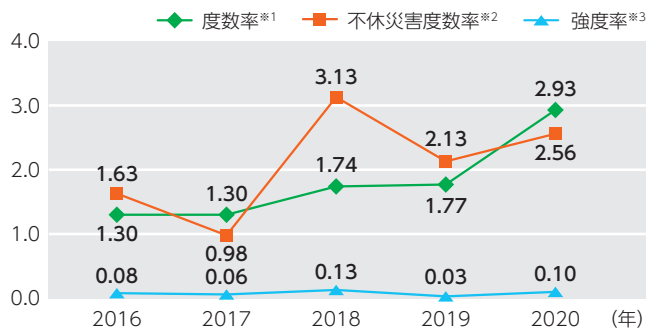
事業場	安全衛生委員	従業員数	従業員に対する安全衛生委員の割合
東京本社	12人	286人	4.2%
関西支社	6人	77人	7.8%
足利第一工場	19人	571人	3.3%
足利第二工場	16人	295人	5.4%
滋賀第一工場	12人	100人	12.0%
滋賀第二工場	14人	126人	11.1%
合計	79人	1,455人	5.4%

※2021年3月31日時点

■労働災害の状況

2020年の当社における労働災害の発生状況は、下記の通りです。2020年の製造業(従業員1,000人以上)の平均度数率は0.28、平均強度率0.03に対し、当社は、度数率2.93、強度率0.10でした。

【度数率・不不休害度数率・強度率(単体)】



※1 労働災害(休業)による死傷者の発生頻度を示す指標
 度数率=労働災害死傷者数÷延べ実労働時間数×1,000,000
 ※2 労働災害(不不休)による傷病者の発生頻度を示す指標
 不不休害度数率=不不休害者数÷延べ実労働時間数×1,000,000
 ※3 労働災害の発生頻度を示す指標
 強度率=延べ労働損失日数÷延べ実労働時間数×1,000

■安全意識の啓発

当社では、安全への意識高揚のため、年間行事として年2回の安全祈願(年初と全国安全週間初日)を実施し、年初には従業員が各自記入した「安全の誓い」を各職場に掲示しています。また年間を通じて各種無災害運動(全国安全週間、年末年始、期末)や、交通安全運動を実施しています。



安全祈願(足利第一工場)

■健康管理

当社では、定期健康診断、特殊健康診断およびストレスチェックを実施し、結果に応じて産業医・看護師による事後対応の指導を実施しています。健康診断結果以外にも従業員の心と身体の悩みに対して、産業医などによるメンタルヘルスケア、健康相談・指導を実施しています。また、THP(トータル・ヘルスプロモーション・プラン)推進活動として、各種健康増進イベントへの参加を促進しています。2020年度は、コロナ禍で外部行事への参加などは実施しませんでした。

■防火・防災への取り組み

アキレスグループ防火・防災基本方針

<https://www.achilles.jp/assets/pdf/csr/philosophy/policy-fire-prevention.pdf#view=Fit>



■総合防火・防災訓練

当社では、各地区で防火・防災委員会を設け、各事業場においては、防火・防災意識の啓発・高揚および防火活動に関する技術の習得を目的とした、総合防火・防災訓練を毎年定期的に行っています(製造部門社内火災予防運動は年3回実施、本社・関西支社防災訓練は年1回以上実施)。

2020年度はコロナ禍により規模を縮小し、各事業場で無線連絡防災訓練を実施しました。



足利第一工場での無線を使った防災訓練

■安全道場

2019年10月、足利第二工場と滋賀第二工場に「安全道場」を開設し、2021年3月末までに従業員および協力企業従業員合計1,235人が受講しました。「安全道場」では、従業員が安全体感装置で過去に発生した事例に基づく危険を疑似体験できるため、座学講習に加えて危険感受性を高める効果が期待できます。当社では、作業経験の浅い従業員を中心に、災害の未然防止につながる取り組みを進めています。



足利第二工場



滋賀第二工場

■食料などの備蓄

当社の各事業場では、震災などの有事に備え、食料や水などを備蓄しています。

地域との関わりと社会貢献活動

地域社会の一員としての取り組み

アキレスグループは、CSR重要テーマの一つとして、地域社会とのコミュニケーションや社会貢献活動を重んじ、地域の発展に貢献することに取り組んでいます。当社では、拠点を置く地域において、教育機関の見学・研修の受け入れや防災訓練への参加、各種イベントへの協賛など、地域団体と共同で地域活性化に協力しています。昨年度はコロナ禍にあって、事業場内での感染抑制に注力し、安全・安心な製品提供に努めました。


■文化財石垣補修・補強技術協会の設立【東京都】

当社は、2020年7月2日に会員14社・2校（発起人代表：国士舘大学・橋本隆雄教授）と共に、「文化財石垣補修・補強技術協会」の設立総会を開催しました。当協会は、城郭石垣および伝統的建造物群石垣の維持・保全を図るための対策工法を構築し、広く全国へ普及させることを目的としています。

2011年東日本大震災において福島県白河市にある小峰城で石垣の10ヵ所約7,000個が崩落し、2016年熊本地震では熊本城の石垣の約8割が崩壊しました。また、2018年7月の西日本豪雨、同年10月の台風24号により、香川県丸亀城ではこれまでの修復箇所もはらみだし3度目の崩落が発生しています。

これまで被害のなかった文化的遺産であるほかの石垣においても、はらみなどによる変状で、次の地震、豪雨による崩落が懸念されるものの、解体から積み直しという工法では膨大な時間とコストを要し、結果的に歴史的文化的遺産の損失へとつながる可能性があります。

これらの補強工法は実績がなく、いまだ土木・地盤工学分野の視点での対策技術が確立されておりません。しかしながら、当社においてはトンネル補修などにおいて発泡ウレタンによる維持・補修技術を保有しており、それらを生かし、極力現状を維持し美観を損なわず耐震性を向上させる対策工法の構築に会員各社と共同で取り組んでいます。

 文化財石垣補修・補強技術協会



総会風景

■ニュースリリース

<https://www.achilles.jp/news/2020/0702.html>



■東京湾の災害対応に当社製ゴムボートが採用【東京都】

2021年3月に当社製複合型高速レスキューボートARD730が東京消防庁に採用されました。ARD730は、7mを超える大型インフレーターボートで、災害対応や海難救助に必要な海上での安定性と高速航行性能を兼ね備えています。



東京消防庁の活動風景(東京湾)

■プロフェッショナル用ボート ARD730

<https://www.achilles.jp/product/medical-lifesaving/lifesaving/pro-use-boat/?tab01>



■足利市の山火事消火活動を支援【栃木県】

2021年2月から3月にかけて、当社の製造拠点がある栃木県足利市において大規模な山林火災が発生しました。

当社は、足利市消防本部に、当社製の背負い式消火水の「ファイヤーハンター」を200式寄贈しました。「ファイヤーハンター」は、歩行時の水揺れの原因となる袋内の空気残りがなく、重心が高めなので、楽に歩行できる背負い式消火水のうです。

消防車両が入れない山腹部での消火活動は難航し、火災が鎮火に近づいてからは、水を入れた消火水のうを背負った消防隊が、人海戦術で残り火の消火作業などにあたられました。

この火災では、発生確認から鎮火までに23日を要し、約167ヘクタールの森林が焼失しました。



残り火消火活動
(画像提供：足利市)

■足育(そくいく)活動【東京都】

本社ショールーム(東京)では、毎週火～金曜日の13:00～17:00に「足型測定とカウンセリング」を実施しています(完全予約制)。また、全国各地の大型ショッピングセンター特設会場でも足育(そくいく)活動を実施するほか、ホームページの受付窓口などからの申し込みに応じて小中学校などで出前講座を開き、足に合った靴の選び方、正しい靴の履き方などの情報を提供しています。本社ショールーム(東京)では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、マスクの着用やアルコール消毒などの感染予防を行った上で、足型測定とカウンセリングを行っています。

本社ショールーム(東京)での足型測定とカウンセリングの風景
(東京都新宿区)



■クリーン作戦【栃木県】

当社の足利工場では、定期的に事業場近隣の清掃活動を行っています。

当社足利工場周辺での清掃活動風景
(栃木県足利市)



Environment

環境への取り組み

環境マネジメントシステム

ISO 14001への取り組み

地球環境保全のため、そしてアキレスグループの体質強化のため、環境マネジメントシステムISO 14001をツールとして活用しています。その中で環境方針、環境目標を定めて、環境負荷低減につながる生産工程および製品づくりを推進し、継続的に環境改善活動に取り組んでいます。2020年度は、ISO 14001:2015/第2回サーベイランスを受審し、29件の観察

事項があったものの、大きな欠点はなく登録が維持されました。

アキレスグループ環境方針

<https://www.achilles.jp/assets/pdf/csr/philosophy/policy-env.pdf#view=Fit>



P29 ISO 14001:2015登録事業場 JUSE-EG-661
(2021年7月更新・登録)

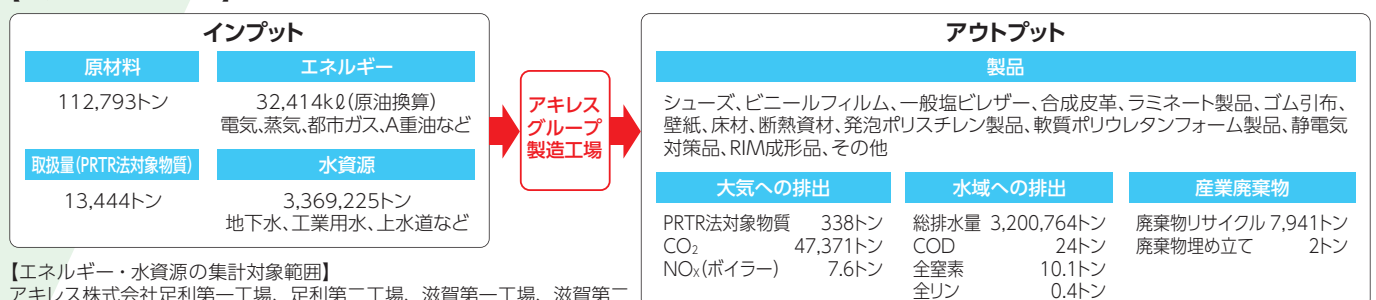
【2020年度活動結果概要・2021年度以降目標】

項目	目標		2020年度実績	評価	2021年度以降目標	掲載ページ
	管理項目	値				
地球温暖化防止と省エネルギー	エネルギー使用による総CO ₂ 排出量 (2021年度からの目標)	2020年度は目標値設定せず	-	-	2018年度比、2030年度末までに30%削減 2021年度上記目標達成に向けた調査と施策立案	P.24
	エネルギー(電気・燃料など)原単位	前年度比、1%削減	前年度比、3.9%増加	×	前年度比、1%削減	P.25
	輸送に伴うエネルギー原単位	前年度比、1%削減	前年度比、1.7%削減	○	前年度比、1%削減	P.25
3R活動による完全ゼロエミッション	廃棄物排出量 ※3R活動推進を基本とする	2017年度比、10%削減	2017年度比、8.9%削減	×	2018年度比、2030年度末までに20%削減 2021年度8%削減	P.26
	廃棄物の最終処分率0.1%未満を達成	2020年度まで0.1%未満を継続	0.03%	○	廃棄物の最終処分率0.1%未満を継続	P.26
環境負荷物質の大気汚染防止	環境負荷5物質の大気排出量	2010年度比、30%削減	49.9%削減	○	2018年度比、2030年度末までに35%削減 2021年度3.5%削減	P.26
スマートプロセスによる環境改善	環境配慮率* ※(エネルギー使用料+廃棄物処理費)÷生産金額×100	前年度実績以下	前年度比、1.2%増加	×	前年度実績以下	-
	環境リスクの特定と対策立案	老朽化対策・工場再編による環境リスクと環境負荷低減	環境負荷低減につながる設備の導入・改造などを計画・実施	○	老朽化対策・工場再編による環境リスクと環境負荷低減	P.29
環境配慮型の商品開発	環境配慮型製品の上市・販売	社内目標による	生分解性フィルム、ノンハロゲン高難燃性ウレタンフォーム等環境配慮型製品の販売目標、上市を達成	○	環境負荷を考慮した商品開発・研究開発の推進・上市	P.14
気候変動適応	気候変動による社内への影響と対策	気候変動に適応する活動に向けた現状把握	・アキレスグループ環境方針への組み入れ ・気候変動適応への他社動向等を調査等	○	(1)大雨時の冠水対策 ①危険物など流出防止 ②設備の浸水被害対策 (2)感染症対策措置の徹底とクラスターゼロ (3)熱中症予防措置の徹底	-

環境負荷の全体像

アキレスグループでは、事業活動に伴う物質・エネルギーのフローを定量的に把握し、会社の持続的発展に向けて、事業活動での環境負荷の低減、資源の有効活用に努めています。下記に、アキレスグループ製造工場の環境負荷の全体像を示します。

【マテリアルバランス】



【エネルギー・水資源の集計対象範囲】

アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/ACHILLES USA, INC./三進興産株式会社

環境事故などに対する是正処置

2020年度は足利第一工場内において、1件の排水トラブルが発生しました。工場内でピット内の油が排水管に流れ込み、事業場内の排水溝に流出しました。流出した油は事業場内で全て回収し、外部への環境影響はありませんでした。

本件発生後、原因箇所をつきとめ、是正を行っています。

また、2020年度の各事業場の水質、大気および騒音の実績値は、全て環境関連法規の基準値内でした。

意識啓蒙活動

環境保全活動は、従業員一人ひとりの意識と行動がなければ実施できません。

アキレスグループでは、新入社員研修、階層別研修などの実施や、専門知識の習得、資格取得にも積極的に取り組んでいます。

また、社内イントラネットで環境関連情報を発信し、環境保全活動の重要性を周知しています。

生物多様性への取り組み

■ 生物多様性についての基本的な考え方

アキレスグループでは、人間社会が生態系から恩恵を受ける一方で、大きな負荷をかけていることを認識し、生物多様性の保全に貢献する取り組みを推進しています。

■ 日光杉並木オーナー制度

日光杉並木街道は、およそ370年前に植えられた杉の巨木が日光街道・例幣使街道・西会津街道の三つの街道にまたがる壮大な杉の並木道です。三つの街道のうちの一つである例幣使街道が当社足利工場のある足利市を通っていることもあり、近年の周辺環境の悪化から杉並木を保護するための「日光杉並木オーナー制度」に賛同し、保全に協力しています。



日光杉並木

■ 琵琶湖森林づくり基金への寄附

当社が製造拠点を置く滋賀県には、重要な水源である琵琶湖があります。また、琵琶湖を取り巻く森林は琵琶湖や淀川流域の重要な水源林であると同時に多様な生物の生息域でもあります。

滋賀県では、この重要な環境を保全すべく森林づくり事業を推進しており、当社はこの活動を支援しています。



琵琶湖周辺森林での間伐イメージ
(画像提供：滋賀県)

水資源の保全

当社では、毎月排水の自主測定を実施し、使用後の排水を環境に影響のない状態で河川へ排出しています。なお、当社足利第二工場および滋賀第一工場、昆山阿基里斯新材料科技有限公司では、工業用水の一部を循環使用しています。

■ 「水質事故被害拡大防止訓練」へ参加

当社では、滋賀県ならびに湖南・甲賀環境協会などが万が一の事故発生を想定して行っている「水質事故被害拡大防止訓練」に積極的に参加し、琵琶湖を含む周辺の環境保全の重要性を再認識しています。

2020年10月6日に行われた訓練は、コロナ禍により規模を縮小し、協会会員・県・市環境行政など総勢90人が参加しました。



吸着マットによる浮上油回収訓練(滋賀県)

地球温暖化対策

温室効果ガス排出量の削減

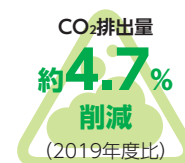
アキレスグループが排出する温室効果ガスは、エネルギー使用(燃料、電気など)と、硬質ウレタンフォーム製造(フロン系をCO₂に換算)に伴う二酸化炭素排出が主体です。

2020年度は、前年度に実施した環境投資効果と硬質ウレタンフォームのノンフロン化率向上に加えて、生産量減少によるエネルギー使用量の減少などから、温室効果ガス排出量は2019年度比で約4.7%減少しました。

当社では、日本政府方針である「カーボンニュートラル2050」を受けて、二酸化炭素排出量削減についての取り組みを強化していきます。

📊 P29 温室効果ガス排出量推移

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社



物流の環境保全活動

■ 二酸化炭素削減活動と排出量実績

当社は、モーダルシフト^{*1}と積載率・大型車利用率向上を通じて、輸送に伴うCO₂排出量の削減を推進しています。

2020年度は、輸送に関わるエネルギー原単位を約1.7%向上させ、CO₂排出量^{*2}を約10.8%削減しました。また、輸送トンキロ^{*3}は、生産量の減少に伴い、約9.3%減少しました。

- ※1 貨物輸送をトラックから鉄道や船に換えることで、一度に大量の貨物を輸送することができ、CO₂排出量を抑えることができます。
- ※2 CO₂排出量 (t-CO₂) = エネルギー使用量 (GJ) × 排出係数 (経済産業省より)
- ※3 輸送トンキロ = 貨物重量 [トン] × 輸送距離 [キロメートル]



鉄道輸送用のコンテナへの積み込み

P.29 輸送に伴う二酸化炭素排出量・モーダルシフト率
【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場



太陽光発電によるエネルギー創生

当社は、足利・滋賀合計で発電容量1,535kWの太陽光発電設備を設置しています。

2020年度は、約1,678kWhの電力を発電し、656t-CO₂相当のCO₂排出量を削減しました。これは当社グループのエネルギー使用によるCO₂排出量の約1.7%に相当します。

P.29 太陽光発電設備



アキレス株式会社足利第二工場



アキレス株式会社滋賀第二工場

省エネルギー

省エネルギー活動

アキレスグループでは、省エネルギー法に基づいた省エネルギー活動の重要性を認識し、環境負荷軽減の重点取り組み事項の一つとして全社を挙げて取り組んでいます。

■ エネルギー使用量(原油換算)

2020年度エネルギー使用量は、前年度に対して約2.8%(0.8kℓ/年)減少しました。設備改善によるエネルギー効率の向上に加え、生産量減少に伴い、エネルギー使用量が減少しました。

P.29 エネルギー使用量(原油換算)の年度別推移

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社



■ エネルギー原単位

2020年度は、「2019年度エネルギー原単位実績に対し1%削減」を目標に、設備改修や省エネ設備の導入を行いました。生産量の減少による影響(小ロット化などの非効率化)により、2019年度に比べ約3.9%増加し、目標値には達しませんでした。

今後も、省エネルギー活動を継続し、前年度比エネルギー原単位1%削減を推進します。

P.29 全社および管理指定工場ごとのエネルギー原単位の年度別推移

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場



■ 設備の改造・導入による使用エネルギー削減

2020年度も高効率化機器への更新、既存設備の効率稼働、照明のLED化などによる使用エネルギー削減に取り組みました。

P.29 設備の改造・導入の主な内容と使用エネルギー削減効果(原油換算値)

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場



3R活動と完全ゼロエミッション

廃棄物の削減に向けて

循環型社会の実現を目指して3R*活動を推進しています。特に廃棄物の発生量自体の削減を目指す発生源対策(リデュース)を重視し根本原因を追究、廃棄物の発生抑制に注力しています。

※廃棄物の発生抑制(リデュース)、部品などの再利用(リユース)、再生資源としての再利用(リサイクル)の略語

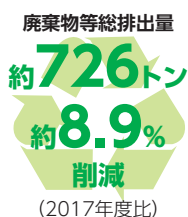
廃棄物等*削減活動結果

2020年度は、「2017年度廃棄物排出量実績に対し10%削減」を目標に活動し、約726トン(約8.9%)削減しました。目標値には達しませんでした。これまで廃棄物となっていたものを有価物として販売できるようになったことが削減の大きな要因です。今後も、既存のリサイクルフローを見直し、廃棄物の分別・選別の徹底、有価物化や廃棄物の再製品化などを推進し、生産量の増加に対していかにして廃棄物発生量を抑制するかを課題とし、廃棄物の削減に注力していきます。

P30 廃棄物等総排出量

※廃棄物等：産業廃棄物と再資源化物を含めたもの

【対象範囲】ISO 14001：2015登録事業場



最終処分量状況

2020年度は、「完全ゼロエミッション(最終処分率*0.1%未満)を2020年度までに達成」を目標に活動した結果、最終処分率は約0.03%(約2トン)となり、2019年度の0.001%に引き続き、完全ゼロエミッションを達成しました。

今後も完全ゼロエミッションの継続を目指し、分別・選別のさらなる徹底およびリサイクルに取り組んでいきます。

P30 最終処分量および最終処分率

※最終処分率(%)=最終処分量/総排出量×100

【対象範囲】ISO 14001：2015登録事業場



大気汚染防止

環境負荷物質の大気排出削減目標

アキレスグループは、「環境負荷物質の大気汚染防止」を全製造部門の共通テーマとしています。中長期目標としては「環境負荷物質の大気排出量を2010年度に対し、2020年度までに30%削減」を掲げ、労働安全衛生法、PRTR*法および大気汚染防止法に基づき、大気排出量の計画的な管理・削減に取り組んできました。

※Pollutant Release and Transfer Register：有害性のある多種多様な化学物質が、どこから、どのくらい、環境中に排出されたか、廃棄物として移動したかを把握し、集計・公表する仕組み

PRTR法第一種指定化学物質削減

PRTR法に則り、該当物質の排出量などを把握した結果、2020年度のPRTR法第一種指定化学物質の年間排出量は約325トン(2010年度比約52.3%削減)、年間移動量は約195トン(同約6.0%増加)となり、年間の排出量・移動量計は約520トン(同約39.9%削減)となりました。

P30 PRTR法対象化学物質の排出量・移動量

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社



VOC大気排出量削減

PRTR法対象物質を含むVOC*物質の中で特に大気への排出量の多い5物質(DMF、ジクロロメタン、トルエン、MEK、酢酸エチル)を「環境負荷物質」と定め、全製造部門でVOC物質から非VOC物質の代替物質への移行や排煙処理装置(RTO)導入による大気排出量の削減を推進しています。

2020年度は、2010年度比30%削減を目標に取り組んだ結果、約49.9%削減となり目標を達成しました。

P.30 環境負荷5物質の大気排出量

※Volatile Organic Compounds：揮発性有機化合物の略称。空气中に揮発する性質のある有機化合物

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社



Governance

ガバナンス・リスクマネジメント

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンス体制

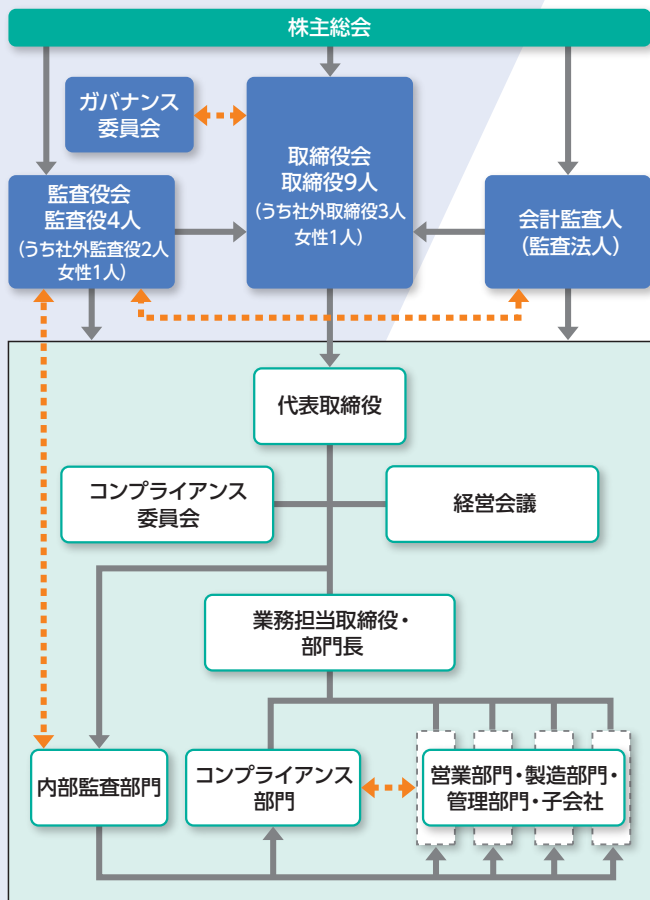
当社においては、取締役会が業務執行状況を監督し、業務執行については、各部門を担当する取締役もしくは部門長に責任と権限を与え、経営の効率的な運用を図っています。

また、3人の社外取締役（うち1人は女性）が客観的・中立的観点から取締役会を通じて経営の監督機能を発揮するとともに、2人の社外監査役（うち1人は女性）が取締役会に出席し、取締役会の意思決定の妥当性・適法性を社外の視点でチェックしており、十分に経営の監視機能を発揮しています。

さらに、指名・報酬などに係わる取締役会の機能の独立性・客観性を高めるため、ガバナンス委員会（社内取締役2人、社外取締役3人の社外役員を過半数とする構成）を開催し、取締役会に助言することとしています。

2021年6月29日より監査役を4人（うち、常勤監査役2人）体制としています。

【コーポレートガバナンス体制図】



■ 取締役会

経営の基本方針、法令で定められた事項、そのほか経営に関する重要事項の審議・決定を行うとともに、取締役の業務執行状況の監督を行っています。

■ 経営会議

意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図るために、取締役会に付議すべき事項の審議を行うほか、取締役会の決定方針に基づく具体的な執行方針やそのほか経営に関する重要な業務執行についての審議・決定を行っています。

■ 監査役会・内部監査・会計監査

監査役会は2人の社外監査役を含む4人の監査役で構成されており、各監査役は監査役会が定めた監査の方針・業務分担に従い、取締役会などへの出席、稟議書などの重要な資料の閲覧、子会社を含む事業場に赴くことなどにより、取締役の職務執行について監査しています。

内部監査部門は、法令遵守状況を定期的および必要に応じ確認しています。また、監査役との連携を図り、監査役の効果的な監査業務の遂行に協力しています。

会計監査は、有限責任監査法人トーマツを監査人に選任し、監査を受けています。また、監査報告会を開催し、監査役会は会計監査人から監査実施状況、監査実施結果などの説明を受けるとともに、会計上と内部統制上の諸問題について助言を得ています。

■ 内部統制システム

当社では、取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制、そのほか株式会社の業務ならびに当該株式会社および子会社からなる企業集団の業務の適正を確保するための体制について、「内部統制の基本方針」を定めています。

この方針に基づき金融商品取引法に定める財務報告に係る内部統制について、当社および連結子会社における整備・運用の評価を行い、その結果を内部統制報告書として公表しています。

■取締役会全体の実効性に関する分析・評価

当社は、年1回、取締役会の実効性に関する匿名式のアンケートを各取締役に実施しています。アンケート結果と各監査役からの意見を社外取締役が確認し、取締役会の実効性について意見表明を行います。最終的には取締役会にて実効性を審議し、評価しています。2020年度のアンケート結果は下表の通りでした。総合評価でも基準値「3」を超えており、実効性ありと判断しています。

【取締役会の実効性に関するアンケート】

質問項目	2019年度	2020年度
取締役会の構成について	3.8	3.9
取締役会の運営について	4.0	3.9
社外役員に対する情報提供について	4.5	4.1
取締役会における審議の充実について	3.7	3.8
前年度からの改善状況について	3.6	3.4
総合評価	4.1	4.1

※5段階評価(5:よくできている、3:普通、1:できていない)

コンプライアンス

基本的な考え方

アキレスグループでは、コンプライアンスを遵守し企業倫理を尊重する企業活動を基本原則として「企業行動憲章」を制定し、さらに具体的な基準として「行動規範」を定めています。役員および嘱託・パートタイマーなどの臨時従業員を含む全ての従業員に対して、「企業行動憲章」を理解し「行動規範」を守ることを求めています。「企業行動憲章」ならびに「行動規範」は、SDGsを含め社会的要請の変化に応じて改定を行っています(前回改定は2019年4月)。

企業行動憲章

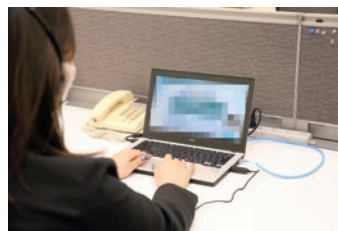
<https://www.achilles.jp/assets/pdf/csr/philosophy/policy-code.pdf#view=Fit>



コンプライアンス推進活動

2020年度の主な取り組みは以下の通りです。研修は、原則的にオンラインでの実施とし、集合形式で行う場合は、人数を制限し、換気やマスク着用などの感染対策を行った上で実施しました。

- ①コンプライアンス研修の実施
 - ・テーマ「下請法」
 - ・テーマ「パワーハラスメント防止(改正法対応)」
- ②役職員のコンプライアンス意識調査の実施
- ③その他法令などの改正に伴う規定の適宜見直しと従業員への周知



オンラインによるコンプライアンス研修受講風景(東京本社)

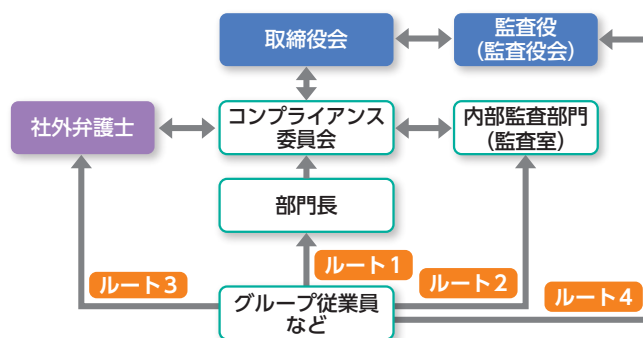
通報・相談制度

アキレスグループは、組織または個人による不正・違法・反倫理行為や「アキレス行動指針」に反する行為の発生、またはその恐れがあると判断したときに相談、あるいは通報することができる仕組みとしてホットライン(内部通報制度)を整備・運用しています。当社グループの取締役など経営層に関する事項を対象とした監査役直通の窓口を設けるなど通報窓口を複数設置することにより、違法行為などの早期発見と是正を図り、会社のリスクを最小限に抑えるよう努めています。また、通報者が不利益な扱いを受けないことを社内規定で担保しています。

ハラスメントに関する相談や通報も、ホットラインで受け付けています。相談・通報者が不利益な扱いを受けないよう、配慮を徹底しています。

ホットラインや不定期アンケートにより確認された人権侵害については、定期的に開催しているコンプライアンス委員会にて協議の上、適切な対策を実施しています。

【ホットラインの仕組み】



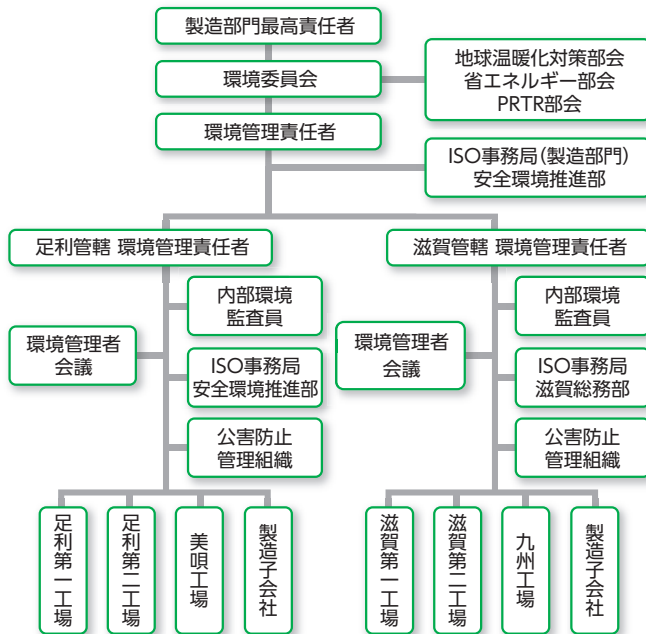
データ編(環境への取り組み)

環境マネジメントシステム

【ISO 14001:2015登録事業場 JUSE-EG-661】

■アキレス株式会社足利第一工場	2001年9月 拡大取得
■アキレス株式会社足利第二工場	2000年7月 認証取得
■アキレス株式会社滋賀第一工場	2002年9月 拡大取得
■アキレス株式会社滋賀第二工場	2002年9月 拡大取得
■アキレス株式会社美唄工場	2002年9月 拡大取得
■アキレス株式会社九州工場	2002年9月 拡大取得
■アキレスマリン株式会社	2001年9月 拡大取得
■アキレスウエルダー株式会社	2001年9月 拡大取得
■関東アキレスエアロン株式会社	2001年9月 拡大取得
■大阪アキレスエアロン株式会社滋賀営業所	2002年9月 拡大取得
■九州アキレスエアロン株式会社	2021年7月 拡大取得

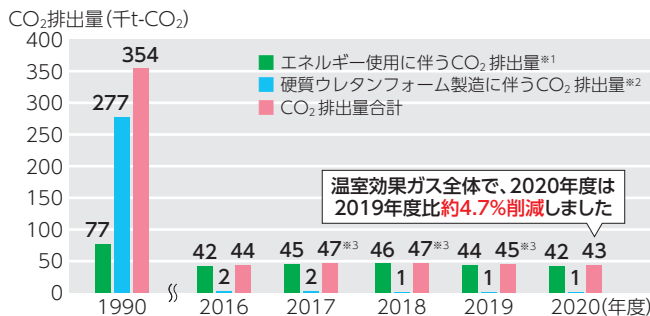
【環境管理推進組織】



【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

地球温暖化対策

【温室効果ガス排出量推移】



※1 エネルギー使用に伴うCO₂排出量は、事業活動に関わるエネルギー(燃料、電気など)に伴い発生するCO₂です。またCO₂排出量は、地球温暖化対策推進法(改正温対法:2006年4月施行)に基づく算出方法・排出係数一覧から算出したものです。なお東日本大震災以降、原発停止により天然ガス(火力発電)使用が増え、電気事業者の排出係数が大幅に大きくなったことから、2010年度以降は2010年度の排出係数で算出しています。

※2 硬質ウレタンフォーム製造に伴うCO₂排出量は、原液製造時および発泡時に漏洩するフロン系をCO₂換算したものです。またフロン系の地球温暖化係数(CO₂換算係数)は、IPCCの4次レポートから準用し、自主的に算出したものです。

※3 「やまがた太陽と森林(もり)の会クレジット(J-クレジット)」より購入した排出削減量を差し引いていません。また、2020年度は、当該クレジットを購入していません。

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社

【輸送に伴う二酸化炭素排出量・モーダルシフト率】

項目(単位)	2019年度	2020年度	前年度比
輸送トンキロ*1(千トンキロ)	77,231	70,078	90.7%
発生するCO ₂ の排出量(t-CO ₂)*2	9,786	8,733	89.2%
モーダルシフト*3率	19.6%	19.4%	0.2ポイント低下

※1 輸送トンキロ=貨物重量[トン]×輸送距離[キロメートル]

※2 CO₂の排出量(t-CO₂)=エネルギー使用量(GJ)×排出係数(経済産業省より)

※3 モーダルシフト:貨物輸送をトラックから鉄道や船に換えることで、一度に大量の貨物を輸送することができ、CO₂排出量を抑えることができます。

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

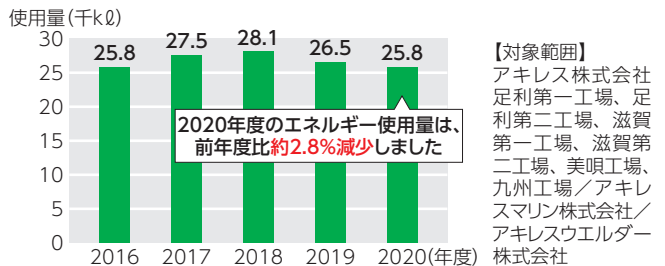
【太陽光発電設備】

	設備容量(kW)	発電電力量(千kWh/年)	CO ₂ 削減量*(t-CO ₂ /年)
足利第二工場	529	604	195.7
滋賀第二工場	1,006	1,074	460.5
合計	1,535	1,678	656.2

※足利第二工場は東京電力、滋賀第二工場はエネットの電気事業者排出係数(2010年)を使用

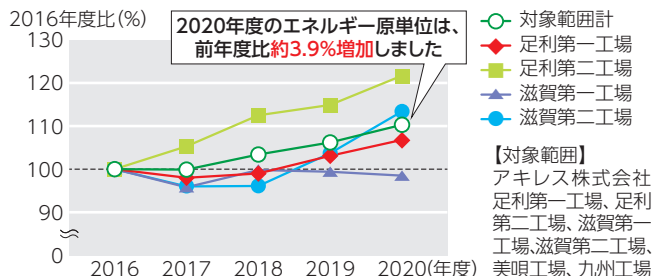
省エネルギー

【エネルギー使用量(原油換算)の年度別推移】



【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社

【全社および管理指定工場ごとのエネルギー原単位の年度別推移】



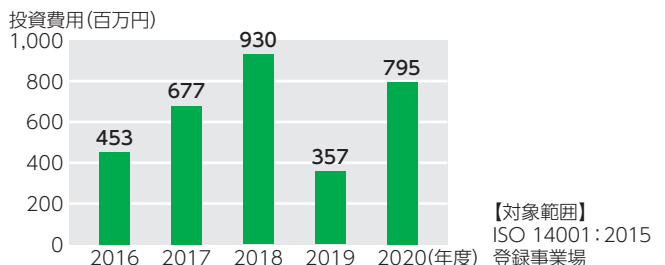
【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場

【設備の改造・導入の主な内容と使用エネルギー削減効果(原油換算値)】

内容	削減効果(kL)
配管・バルブなどの保温強化、蒸気漏れ防止	95
コンプレッサーの更新、エア漏れ防止	65
トップランナー空調設備への更新	45
LED照明・Hf蛍光灯の採用	35
ボイラーフラッシュ蒸気回収装置導入	25
変電所での高効率変圧器への更新	20
その他(ポンプ・モーターのインバータ化など)	35
合計	320

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

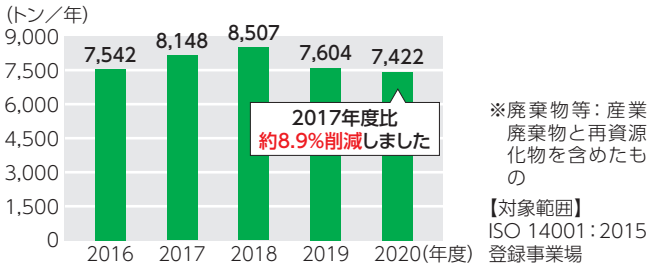
【年度別環境関連設備投資費用(過去5年間)】



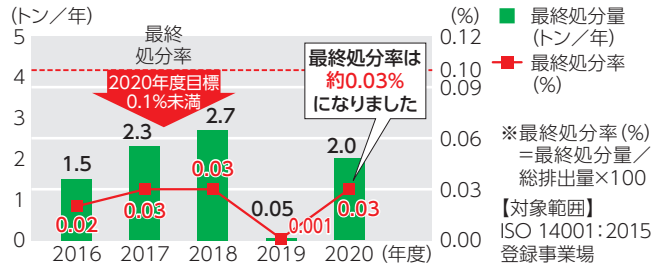
【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

3R活動と完全ゼロエミッション

【廃棄物等*総排出量】

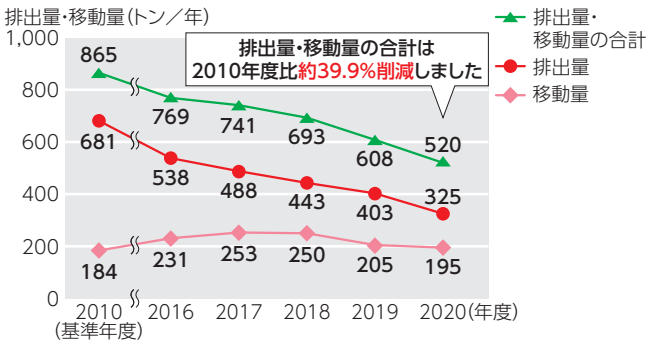


【最終処分量および最終処分率*】

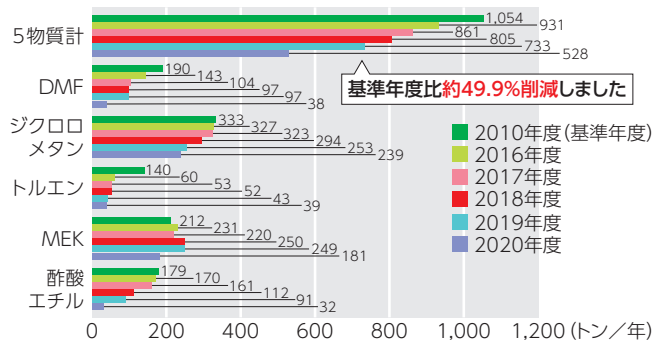


大気汚染防止(環境負荷物質)

【PRTR法対象化学物質の排出量・移動量】



【環境負荷5物質の大気排出量】



【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社

事業場別データ (2020年4月~2021年3月)

【PRTRデータ】

PRTR法対象 第一種指定化学物質名	足利第一工場			足利第二工場			美唄工場			アキレスマリン株式会社		
	排出量 大気	移動量 水域	廃棄物	排出量 大気	移動量 水域	廃棄物	排出量 大気	移動量 水域	廃棄物	排出量 大気	移動量 水域	廃棄物
アンチモン及びその化合物	0.00	0.00	2.00	0.00	0.00	0.04	—	—	—	—	—	—
キシレン	0.07	0.00	0.02	2.50	0.00	0.13	—	—	—	—	—	—
ジクロロメタン(塩化メチレン)	130.00	0.00	5.20	3.10	0.00	0.20	8.40	0.00	0.54	—	—	—
N,N-ジメチルホルムアミド(DMF)	38.00	0.23	6.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—
m-トリレンジイソシアネート	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—
トルエン	32.00	0.00	1.20	5.50	0.00	0.29	—	—	—	2.10	0.00	0.00
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.62	0.00	23.00	0.04	0.00	38.00	—	—	—	—	—	—
メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	0.00	0.00	3.90	0.00	0.00	0.27	0.00	0.00	0.40	—	—	—

PRTR法対象 第一種指定化学物質名	滋賀第一工場			滋賀第二工場			九州工場		
	排出量 大気	移動量 水域	廃棄物	排出量 大気	移動量 水域	廃棄物	排出量 大気	移動量 水域	廃棄物
キシレン	0.01	0.00	0.00	—	—	—	—	—	—
ジクロロメタン(塩化メチレン)	—	—	—	100.00	0.00	4.70	—	—	—
m-トリレンジイソシアネート	—	—	—	0.09	0.00	0.00	—	—	—
トルエン	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.58	0.00	98.00	—	—	—	—	—	—
1-プロモプロパン	—	—	—	2.40	0.00	9.60	—	—	—
ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	—	—	—	0.00	0.00	0.01	—	—	—
メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	—	—	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
リン酸トリフェニル	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	—	—	—

PRTR法該当物質：2020年度の年間取扱量1トン以上の第一種指定化学物質のうち、排出量・移動量が多い上位物質のみ掲載(単位：トン/年)
横線の物質は報告対象外(取扱量1トン/年未満)

【水質】

測定項目	単位	基準値	足利第一工場			滋賀第一工場			基準値	滋賀第二工場	
			足利第一工場	足利第二工場No.1*	足利第二工場No.2*	基準値	滋賀第一工場No.1*	滋賀第一工場No.2*		基準値	滋賀第二工場
水素イオン濃度(pH)	pH	5.8~8.6	7.0	7.2	7.2	6.0~8.5	7.4	7.8	6.0~8.5	7.8	
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/l	25以下	1.4	4.7	1.4	25以下	1.2	4.1	30以下	1.1	
浮遊物質(SS)	mg/l	50以下	1.0	12.7	1.1	25以下	7.1	1.2	70以下	1.7	
ノルマルヘキサン抽出物質含有量	mg/l	5以下	<0.5	<0.5	<0.5	5以下	<0.5	<0.5	5以下	<0.5	
窒素含有量(T-N)	mg/l	120以下	3.1	3.4	3.2	12以下	0.4	0.3	12以下	2.6	
リン含有量(T-P)	mg/l	16以下	<0.1	<0.1	<0.1	1.2以下	0.05	0.89	1.2以下	0.05	

*水質は、足利第二工場は2カ所、滋賀第一工場は2カ所で測定されたものです。 ※基準値は各事業場所在地の条例によるものです。

【大気】

測定項目	単位	基準値	足利第一工場	基準値	滋賀第一工場
SOx(ボイラー)	k値規制	7	—	17.5	—
NOx(ボイラー)	ppm	150	39	150	31

都市ガス使用のため、SOxの排出なし

会社概要

設立 1947年5月
 代表者 代表取締役社長 伊藤 守
 資本金 146億4千万円
 従業員数 1,662人(連結) ※2021年3月末
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

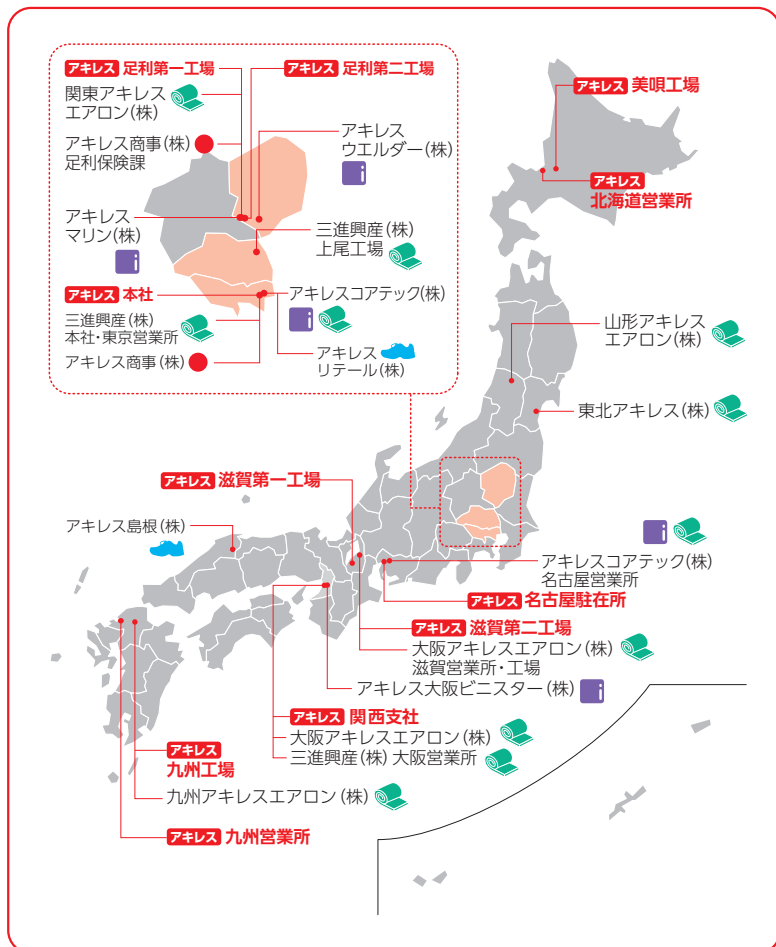
本社所在地 〒169-8885 東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー
 事業所 **【販売拠点】** 東京、大阪、北海道、愛知(ウレタン)、福岡
【生産拠点】 栃木(2拠点)、滋賀(2拠点)、北海道、福岡
 ※各拠点の詳細な住所は右記のQRコードまたは
 以下URLでご確認ください。

<https://www.achilles.jp/company/>



事業拠点

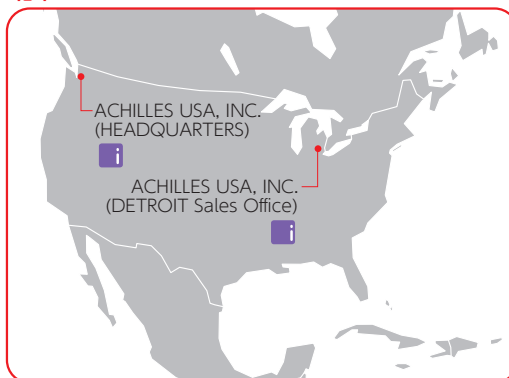
日本



アジア



北米



アキレス アキレス(株) 拠点

子会社事業説明

- シューズ部門
- プラスチック部門
- 産業資材部門
- その他

※上記以外に、関連会社として、以下の4社がございます。
 東海化工(株)、興亜工業(株)、昆山阿基里斯新材料科技有限公司(中国江蘇省)、ANL Group Limited(香港)

アキレスレポート 2021

発行日：2021年9月 発行：アキレス株式会社

お問い合わせ先

【コンプライアンス推進室】

〒169-8885 東京都新宿区北新宿 2-21-1 新宿フロントタワー
 TEL：03-5338-8234 FAX：03-5338-8250

【安全環境推進部】

〒326-8511 栃木県足利市借宿町 668
 TEL：0284-73-9148 FAX：0284-73-9854